

地方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス  
地方裁判所ニ其納付ヲ受ケタル身分登記簿ノ副本ヲ永久ニ保存スルコトヲ要ス

第十二條 身分登記簿ノ事變ヲ避ケル爲メニスル場合ヲ除ク外之ヲ戶籍役場外ニ持出スコトヲ得ス但登記ヲ終結シタル登記簿ニ付キ裁判所又ハ豫審判事ノ命令アリタルトキハ此限ニ在ラス

第十三條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ身分登記簿ノ閱覽又ハ登記リ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戶籍吏之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戶籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス又ハ第二十一條ニ依リ出納金ノ取立ニ付テハ戶籍吏力閱覽又ハ交付ノ請求ヲ許ササル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求

者ニ告知スルコトヲ要ス

第十四條 身分登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且身分登記簿ノ再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス

第三章 登記手續

第十五條 身分登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

- 一 戶籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其届書ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 二 戶籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ
- 三 戶籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 四 戶籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 五 戶籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ
- 六 戶籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ

戶籍法 登記手續



第十六條 前條ニ掲ケタル場合ト雖モ届出、送付其他ノ手續カ本法ノ規定ニ依  
リタルモノニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更  
スルコトヲ得ス

第十八條 戶籍吏カ届出、報告其他登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其書  
類ニ受附ノ番號及七年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 登記ハ本籍人、非本籍人及ヒ登記ヲ爲スヘキ事件ノ區別ニ從ヒ相當  
ノ登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戶籍吏ノ管轄ニ歸シ又ハ其  
管轄ヲ離ルル場合ニ於テハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

一箇ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキハ同時ニ本籍人身分登記  
簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附  
記スルコトヲ要ス

第二十一條 被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキハ非本籍人身分登記簿ニ登記  
ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 登記ニハ第四章ノ規定ニ依リ届出、報告、申請若クハ請求ヲ爲シ  
又ハ航海日誌ノ謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

證書ノ謄本ニ依リテ爲ス登記ニハ其謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ  
要ス

裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコ  
トヲ要ス

第二十三條 登記ヲ爲スヘキ事實カ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届  
出事件ノ二箇以上ニ涉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ各登記ニ付キ必要ナル事項ノミヲ記載シ各登記ノ欄外ニ交互  
參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十四條 登記取消ノ登記ハ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル登記ノ欄外ニ之  
戸籍法 登記手續

五百十一



第二十五條 登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且其申請ノ基  
本タル裁判ノ趣旨ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス  
第二十六條 本籍分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リ  
タル旨ノ届出又ハ報告アリタルトキハ原登記ノ欄外ニ其登記ヲ爲スコトヲ要  
ス

本籍分明ト爲ル者カ本籍人ナリシトキハ前項ノ規定ニ依テス更ニ本籍人  
身分登記簿ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記ス  
前二項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキ  
第二十七條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲サザリシトキ戶  
籍簿ニ其ノ事實ヲ記載スルコトヲ要ス

籍吏ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ  
爲スコトヲ要ス

第二十八條 登記ニハ第二十二條ニ規定シタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコ  
トヲ要ス

一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日但他ノ戶籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ  
受ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職、氏名及ヒ發送ノ年月日ヲ併記スル  
コトヲ要ス

二 報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告者又ハ請求者ノ官職、  
氏名

三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日  
誌ノ作製者及ヒ謄本發送者ノ官職、氏名

四 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所ノ名

第二十九條 登記ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用井ス字畫明瞭ナルコトヲ要ス

戶籍法 登記手續



年月日時及七年齢ヲ記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用弗スシテ壹貳參拾ノ字ヲ用ユルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戶籍吏之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第三十條 登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外日次ヲ逐ヒ事件受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲シ一事件毎ニ番號ヲ附シ用紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續セシムルコトヲ要ス

第三十一條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要ス  
第三十二條 欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得此場合ニ於テハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ戶籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戶籍吏ノ管

轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

被登記者ノ本籍カ他ノ戶籍吏ノ管轄ヨリ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ副本ヲ舊管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十四條 被登記者ノ本籍カ届出ヲ受ケタル戶籍吏ノ管轄以外ニ於テ一ノ戶籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ其届出ヲ受ケタル戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戶籍吏ニ送付シ其副本ノ一通ヲ舊管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十五條 前二條ノ場合ヲ除ク外被登記者ノ本籍カ戶籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキハ戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ管轄戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十六條 第二十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ届出以外ノ事由ニ因リ被登記



者ノ本籍カ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ戶籍吏ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作り其謄本ヲ以テ届書ノ副本ニ代フルコトヲ要ス届出以外ノ事由ニ依リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戶籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキ亦同シ

第三十七條 登記ヲ爲シタルトキハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ニ登記ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編綴シ且之ニ目錄ヲ附スルコトヲ要ス

第三十八條 前條ノ書類ハ一个月毎ニ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付シ監督裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滞ナク其全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス

登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ

戶籍吏ハ遲滞ナク其登記ノ謄本ヲ作り職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

地方裁判所長ハ前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付シ職印ヲ以テ謄本ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第四十條 登記ヲ爲シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ戶籍吏ハ遲滞ナク之ヲ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス

第四十一條 戶籍吏ハ每年末ニ於テ最終登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ最終登記ヲ爲ス前登記簿ノ用紙ヲ用井盡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四章 身分ニ關スル届出

戶籍法 身分ニ關スル届出



第一節 通則

第四十二條 身分ニ關スル届出ハ其届出入ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出入カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得

届出入カ本籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ス

第四十三條 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ届出入ノ戸籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出入之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 届出事件

二 届出ノ年月日

三 届出入ノ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地

第四十五條 届出入ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出入カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出入ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十六條 届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス

前項ノ場合ニ於テハ届出入ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日及ヒ本籍地

二 無能力ノ原因

三 届出入カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

第四十七條 前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニハ之ヲ適用セス

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出入カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添

戸籍法 身分ニ關スル届出



フルコトヲ要ス

第四十八條 證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第四十九條 届出入、届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ其所在地ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十條 本法ノ規定ニ依リ届書ニ記載スヘキ事項中其事實ノ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但戶籍吏ハ各届出事件

ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十一條 届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第五十二條 第二十九條ノ規定ハ届書ノ記載ニ之ヲ準用ス

第五十三條 本籍地ノ戶籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

届出ニ因リ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル場合ニ於テ兩

家ノ本籍地カ戶籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ届書ハ正副二本ヲ作り届出地ト

兩家ノ本籍地トカ各戶籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス

第五十四條 口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出入ハ戶籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述シ戶籍吏ハ直チニ其口述竝ニ届出ノ年月日、届出人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出入ヲシテ之

ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リテ戶籍吏カ作ルヘキ書面ニハ届書ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十六條 第四十三條、第五十四條及ヒ前條ノ規定ハ届出事件ニ關スル同意、承諾又ハ承認ノ證明ニ之ヲ準用ス

第五十七條 本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外法令ノ規定ニ依リ届出事件ニ付キ

戶籍法 身分ニ關スル届出 五百二十二



官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届出入ハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第五十八條 届出入カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出タスコトヲ得

第五十九條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ三个月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

第六十一條 前二條ノ規定ニ依リテ公使又ハ領事力受取リタル届書又ハ證書ノ謄本ハ其公使又ハ領事ヨリ三个月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日

内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第六十二條 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スルキ場合ニ於テ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受クル前裁判力確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出ヲ怠リタル爲メ過料ニ處セラレタル者アルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其者カ届出ヲ爲スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但戸籍吏ヨリ既ニ届出ヲ受理シタル旨ノ通知アリタル場合ハ此限ニ在ラズ

戸籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ戸籍吏ハ更ニ相當ノ期間戸籍法 身分ニ關スル届出 五百二十三



ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戸籍吏ノ催告ニ應セサルト  
キ亦同シ

第六十四條 戸籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲ササル者アル  
コトヲ知リタルトキハ遲滞ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要  
ス

第六十五條 届出期間ヲ經過シタル後ニ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ戸籍吏ハ其  
届出ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十六條 届出入ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ  
得

第六十七條 届出ニ關スル規定ハ登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ之ヲ準用ス

第二節 出生

第六十八條 子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツル  
コトヲ要ス

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル  
者ナルトキハ其旨

三 出生ノ年月日時及ヒ場所

四 父母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名、  
族稱、職業及ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス

五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地

六 出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因

七 國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第六十九條 嫡出子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍  
吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ出生地又ハ父ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコ  
トヲ要ス但庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

戸籍法 身分ニ關スル届出



私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ届出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 汽車又ハ航海目誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付テハ到着地ヲ以テ出生地ト看做ス

第七十一條 嫡出子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

前三項ニ掲ケタル者ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戸主

第二 同居者

第三 分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第七十二條 夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖モ前條第一項ノ規定ニ依リ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十三條 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲シ且第一項ノ届出ニ依リテ爲シタル登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十四條 病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テ父又ハ母ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院、監獄又ハ其他ノ公設所ノ長若

戸籍法 身分ニ關スル届出



クハ管理人ヨリ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時内ニ其旨ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

棄兒發見ノ届出アリタルトキハ戶籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且之ニ附屬スル衣服・物品・發見ノ場所・年月日時其他ノ景況竝ニ其兒ノ出生ノ推定年月・氏名・男女ノ別・引受人ノ氏名・職業・本籍地及ヒ所在地又ハ育兒院ノ稱號竝ニ場所及ヒ引渡ノ年月日ヲ調書ニ記載シテ之ヲ届書ニ添ヘ置クコトヲ要ス  
引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第二項ノ調書ハ登記ニ付テハ之ヲ届書ト看做ス

第七十六條 棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ一个月内ニ第六十八條ノ届出ヲ爲シ且棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十七條 出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲ササル前出生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒發見及ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名・捺印シ且證人ノ出生ノ年月日・職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三個月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第三節 嫡出子否認  
戶籍法 身分ニ關スル届出  
五百三十九



第七十九條 嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキハ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ

一 个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且既ニ出生ノ登記  
ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ要ス

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

二 出生ノ年月日

三 否認ノ裁判カ確定シタル年月日

第四節 私生子認知

第八十條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

二 出生ノ年月日

三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日

四 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

前項第四號ノ場合ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業、本籍地及

ヒ其戸主ト母トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 民法第八百三十一條第二項ノ規定ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ於テ

ハ認知者ハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨  
ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十二條 民法第八百三十條及ヒ第八百三十一條ノ規定ニ依リ子、母又ハ直

系卑屬ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添ヘ又ハ承  
諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコト  
ヲ要ス

第八十三條 遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ハ遺言カ效

力ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添ヘ前三條ノ規定  
ニ從ヒテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

遺言ニ依ル認知ノ届書ニハ認知者ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十四條 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出

戸籍法 身分ニ關スル届出



義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但遺言執行者カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第五節 養子縁組

第八十五條 縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

養子カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外婚家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十六條 民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ縁組ノ承諾ヲ爲シタル者ハ養子ニ代ハリテ縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條 民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第八百四十一條第二項及ヒ第八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リ戸主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者チシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第八十八條 民法第八百四十二條ノ規定ニ依リ配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條 民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ縁組ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ第八十五條ニ掲ケタル諸件及ヒ遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ養子ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第九十條 縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條 縁組カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シ戸籍法 身分ニ關スル届出 五百三十三



テ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス  
第九十二條 縁組ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十三條 第八十五條及ヒ第八十七條乃至第八十九條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十四條 第五十八條ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節 養子離縁

第九十五條 離縁ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 縁組ノ年月日

五 離縁カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

六 養子ノ妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及ヒ妻ノ名

七 養子カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

八 養子カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事山

第九十六條 民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養親及ヒ養子ニ代ハリテ協議ヲ爲シタル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養子ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第九十八條 民法第八百六十二條第三項及ヒ第八百六十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第九十九條 離縁ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ戸籍法 身分ニ關スル届出



第百條 第九十五條及第九十八條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス

第百一條 第五十八條ノ規定ハ離縁ハ届出ニハ之ヲ適用セズ届出入ハ届書ニ關シテ第七節結婚ニ關シテ之ヲ適用ス

第百二條 婚姻ハ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス  
一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍地  
二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三 當事者ノ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地  
四 夫ハ婚姻ハ婿ノ婿ノ子孫ヲ得ルコトヲ要ス

五 夫ハ婚姻ハ場合ニ於テ夫ハ夫カ月主ト爲ラザルコトヲ要ス  
六 婚姻ニ因リテ嫡出子タルトキハ其名及ヒ出生ノ年月日

當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三條 民法第百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第百四條 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但ハ夫婚姻及ヒ婿ノ子孫ヲ得ルコトヲ要スル場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百五條 婚姻カ無効ナルトキハ届出入ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第百六條 婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者戸籍法 身分ニ關スル届出 五百三十七



ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スル  
コトヲ要ス

検事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ從ヒ檢事ヨリ登記ノ取消ヲ  
請求スルコトヲ要ス

第七條 第二百二條及ヒ第二百三條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準  
用ス

第八條 第五十八條ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節 離婚

第九條 離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 婚姻ノ年月日

五 離婚カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

六 當事者カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

七 當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第十條 民法第八百九條ノ規定ニ依リ父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要ス  
ル場合ニ於テハ届出入ハ届書ニ同意ノ書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシ  
テ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第十一條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ  
日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 第九條及ヒ第十一條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ  
準用ス

第十三條 第五十八條ノ規定ハ離婚ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第九節 後見

第十四條 後見ノ開始アリタルトキハ後見人ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸  
戸籍法 身分ニ關スル届出 五百三十九



件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ住所
- 二 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 三 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 後見開始ノ原因及ヒ年月日
- 五 後見人就職ノ年月日

第百十五條 後見人ノ更迭アリタルトキハ後任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日  
内ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ前任者ノ氏名ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要  
ス

第百十六條 後見人カ遺言ヲ以テ指定セラレタル者ナルトキハ届書ニ其指定ニ  
關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス  
後見人カ親族會ニ於テ選任セラレタル者ナルトキハ届書ニ其選任ニ關スル證  
明書ヲ添フルコトヲ要ス

第百十七條 後見人ノ任務終了シタルトキハ後見人ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具  
シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 就職ノ年月日
- 三 任務終了ノ原因及ヒ年月日

後見人ノ任務カ其死亡ニ因リテ終了シタルトキハ前項ノ届出ハ後見監督人會  
リ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十八條 後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ之ヲ  
爲スコトヲ要ス

第十節 隱居

第百十九條 隱居ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 隱居者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 家督相續人ノ名、出生ノ年月日、職業及ヒ家督相續人ト隱居者トノ續  
戶籍法 身分ニ關スル届出



柄

三 隠居ノ原因

第二百十條 裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ裁判  
ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第二百十一條 隠居ノ届出人ハ届書ニ家督相續人ノ承認ノ證書ヲ添へ又ハ承認  
ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要  
ス

前項ノ規定ハ民法第七百五十五條第二項ノ規定ニ依リ夫ノ同意ヲ要スル場合  
ノ届出ニ之ヲ準用ス

第二百十二條 隠居ノ取消ノ裁判ヲ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁  
判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコト  
ヲ要ス

第二百六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一節 失踪

第二百三條 失踪ノ宣告アリタルトキハ其宣告ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ  
日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添へテ之ヲ届出ツルコトヲ要  
ス

- 一 失踪者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 失踪ノ宣告アリタル年月日
- 三 失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、族稱及ヒ戸主ト失踪者トノ續  
柄

第二百四條 失踪ノ宣告ノ取消アリタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判  
確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ  
要ス

第十二節 死亡

第二百五條 死亡者アリタルトキハ届出義務者カ其死亡ヲ知リタル日ヨリ五  
戸籍法 身分ニ關スル届出  
五百四十三



日丙ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書若クハ檢案書又ハ警察官ノ檢視調書ノ贖本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 死亡者ノ氏名、出生ノ年月日、男女ノ別及ヒ本籍地

二 死亡ノ年月日時及ヒ場所

三 死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、族稱及ヒ戸主ト死亡者トノ續柄

前項ノ届出期間ハ衛生ノ爲メ特別ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二百二十六條 左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戸主

第二 同居者

第三 家主、地主又ハ土地若クハ家屋ノ管理人

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第二百二十七條 死亡ノ届出ハ死亡地又ハ死亡者ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏

ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十八條 第七十條及ヒ第七十四條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第二百二十九條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ滯留ナク第二百二十五條ニ

掲ケタル諸件ヲ具シ監獄所在地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監申死亡シタル者アリテ死體ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス

此場合ニ於テハ報告書ニ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添フルコトヲ要ス

第二百三十條 航海中ニ死亡者アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船

者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第二百二十五條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ

記載シ證人ト共ニ署名、捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記

載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二

十四時内ニ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要

戸籍法 身分ニ關スル届出



艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三個月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ死亡者ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第三百一十一條 艦船ノ難破ニ因リテ乗組員及ヒ乗客ノ全部又ハ一部カ死亡シタルトキハ其難破ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ戶籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十二條 死亡者ノ本籍分明ナラス且其何人タルコトヲ認識スルコト能ハサルトキハ警察官ハ檢視調書ヲ作り遲滞ナク之ヲ其地ノ戶籍吏ニ報告スルコトヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ其何人タルコトヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滞ナク前ニ報告ヲ受ケタル戶籍吏ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

トヲ要ス

第二百二十六條第一項第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル死亡届出義務者カ前項ノ事實ヲ知リタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢察書ニ代ヘ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添フルコトヲ得

第十三節 家督相續

第三百三十三條 家督相續ニ因リテ戶主ト爲リタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一個月内ニ左ノ諸件ヲ具シ之ヲ被相續人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

- 一 家督相續ノ原因及ヒ戶主ト爲リタル年月日
  - 二 前戶主ノ名及ヒ前戶主ト家督相續人トノ續柄
- 家督相續人カ外國ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ届出ハ三個月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル

第三百三十四條 家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ相續權ヲ回復シタル者ノ戶籍法 身分ニ關スル届出



六 裁判確定ノ日ヨリ一个月内三前條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判以贍本ヲ添ヘ  
テ之ヲ届出テ且前ニ爲シタル家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第三百三十五條 家督相續人カ胎兒ナルトキハ其母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ  
知リタル日ヨリ一个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ家督相續ノ  
届出ヲ爲スコトヲ要ス

一 相續開始ノ年月日

二 家督相續人ノ胎兒ナルコト

三 前戸主ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

第三百三十三條第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ適用ス

第三百三十六條 胎兒ヲ家督相續人トシテ届出テタル場合ニ於テ其胎兒カ死體ニ  
テ生レタルトキハ母ハ出産ノ日ヨリ一个月内ニ醫師又ハ出産ニ立會ヒタル産  
婆ノ檢案書ヲ提出シテ家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス  
母カ登記取消ノ申請ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ

一个月内ニ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

#### 第十四節 推定家督相續人ノ廢除

第二百二十七條 推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ被相續人ハ裁判  
確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ贍本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコト  
ヲ要ス

一 廢除セラレタル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

二 廢除ノ原因

三 廢除ノ裁判カ確定シタル年月日

第二百二十八條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シ  
タル場合ニ於テ廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ前條ノ届出ハ遺言執行者ヨリ  
之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百二十九條 推定家督相續人廢除ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其取消ヲ

戸籍法 身分ニ關スル届出



請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十五節 家督相續人ノ指定

第四百十條 家督相續人指定ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 指定家督相續人タルヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

- 二 法定ノ推定家督相續人ナキコト

第四百十一條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ家督相續人指定ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百十二條 家督相續人指定ノ取消ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 指定家督相續人ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 指定ノ年月日

第四百十三條 家督相續人指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス者ハ同時ニ家督相續人指定ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第四百十四條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ル外届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ指定ノ取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百十五條 家督相續人ノ指定ガ其效力ヲ失ヒタルトキハ指定ヲ爲シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ其效力ヲ失ヒタル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十六節 入籍、離籍及ヒ復籍拒絕

第四百十六條 民法第七百二十五條第一項各クハ第七百三十七條ノ規定ニ依リ他家ノ家族ト爲ラント欲スル者又ハ民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ婚家、養家又ハ自家ノ家族ト爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ入籍法 身分ニ關スル届出 五百五十一



籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

五百五十二

- 一 入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
  - 二 入籍スヘキ家ノ戸主又ハ家族ト入籍スヘキ者トノ親族關係
  - 三 入籍スヘキ者カ廢家シテ他家ニ入ルトキハ其旨
  - 四 入籍スヘキ者カ家族ナルトキハ其去ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄
- 第四百七條 民法第七百三十五條第一項、第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リ戸主、配偶者、養親、親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス
- 第四百八條 戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
- 一 離籍セラルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業

二 離籍ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日

三 離籍セラルヘキ者ト共ニ家ヲ去ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト離籍セラルヘキ者トノ續柄

第四百九條 離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 離籍ヲ爲シタル戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 離籍ヲ爲シタル戸主ト届出入トノ續柄

三 離籍ノ原因及ヒ年月日

四 届出入ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出入トノ續柄

第五百十條 戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

戸籍法 身分ニ關スル届出 五百五十三



二 復籍ヲ拒マルヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

三 復籍拒絶ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日

第百五十一條 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサル者カ一家ヲ創立シタルトキハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 復籍ヲ拒ミタル戸主又ハ廢絶シタル家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ノ原因及ヒ年月日

三 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出入トノ續柄

第十七節 廢家及ヒ絶家

第百五十二條 廢家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シ家督相續ニ因リテ戸

主ト爲リタル者ニ非サルコトノ證明書又ハ廢家ノ許可ニ關スル裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 廢家シタル者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 廢家シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第百五十三條 絶家ノ家族ニシテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ絶家及ヒ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

一 絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 絶家ノ原因及ヒ年月日

三 一家ヲ創立シタル者ニ隨ヒテ其家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第十八節 分家及ヒ廢絶家再興

第百五十四條 分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

戸籍法 身分ニ關スル届出



ヲ要ス

- 一 分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 本家ノ戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト分家ノ戸主ト爲ルヘキ者トノ續柄

- 三 分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日及ヒ職業
- 四 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

第五百五十五條 廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 廢絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 廢絶ノ原因及ヒ年月日
- 三 廢絶シタル家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄
- 四 再興ヲ爲ス者ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 五 再興ヲ爲ス者ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキ者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第五百五十六條 分家又ハ廢絶家再興ノ届出人ハ届書ニ戸主ノ同意ノ證書ヲ添ヘ

又ハ戸主ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百四十三條但書ノ規定ニ依リ親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ之ヲ準用ス

第十九節 國籍ノ得喪

第五百五十七條 外國人カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ婚姻又ハ縁組ノ届出人ハ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

入夫婚姻又ハ養子縁組ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル外届書ニ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第五百五十八條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知者ハ認知ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

戶籍法 身分ニ關スル届出



子ノ母カ外國人ナルトキハ認知者ハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十九條 歸化ヲ爲シタル者ハ歸化ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ左ノ

諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 歸化人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、住所及ヒ原國籍

二 父母ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ國籍

三 歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月

日、職業及ヒ其者ト歸化人トノ續柄

四 許可ノ年月日

歸化人ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルトキハ届書ニ其事

由ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者ハ其國籍喪失前ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ

届出ツルコトヲ要ス

一 國籍喪失ノ原因

二 國籍喪失ノ期日ヲ知り得ヘキトキハ其年月日

三 法定ノ推定家督相續人アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者

ト届出人トノ續柄

四 新ニ取得スヘキ國籍

五 届出人ノ妻又ハ子カ共ニ國籍ヲ失フヘキトキハ其妻又ハ子ノ名、出生

ノ年月日及ヒ職業

第百六十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失前ニ前條ノ届出ヲ爲スコト

能ハサリシトキハ國籍喪失後十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ國籍喪失者カ日本ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ之ヲ適用セ

ス

第百六十二條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ國籍

喪失ノ届出人ハ届書ニ其者カ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服ス

ル義務ナキコトノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

戶籍法 身分ニ關スル届出



日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ官職ヲ帶フル者ナルトキハ國籍喪失ノ届出入ハ届書ニ所屬長官ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百六十三條 日本ノ國籍ヲ回復シタル者ハ國籍回復ノ許可ヲ得タル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日  
二 國籍回復前ニ有セシ國籍  
三 國籍回復ノ許可ヲ得タル年月日  
四 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第二十節 氏名及ヒ族稱ノ變更

第百六十四條 氏ヲ復舊シ又ハ名ヲ改稱シタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 復舊又ハ改稱前ノ氏名

二 復舊シタル氏又ハ改稱シタル名

三 復舊又ハ改稱ノ原因及ヒ許可ノ年月日

第百六十五條 新ニ華族ニ列セラレ又ハ華士族ノ稱ヲ失ヒタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ辭令書又ハ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 新舊族稱

二 族稱變更ノ原因

三 族稱變更ノ辭令又ハ許可アリタル年月日

前項ノ届出ハ其族稱ニ變更アリタル者カ家族ナルトキハ戶主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十六條 前條ノ規定ハ分家、廢絶家再興又ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル者ニハ之ヲ適用セス但處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於テハ裁判所ハ戶籍法 身分ニ關スル届出 五百六十一



其者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第二十一節 身分登記ノ變更

第六十七條 身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スル者ハ原登記ヲ爲シタル戸籍

役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其申請ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條 身分登記變更ノ申請ハ許可ノ裁判ヲ確定シタル日ヨリ一个月内

ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ之ヲ爲スコ

トヲ要ス

一 原登記ノ件名及ヒ年月日

二 變更スヘキ事項

第六十九條 前條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ身分登記ノ變更ヲ申請スル場合

ニ之ヲ準用ス

第五章 戸籍簿

第七十條 戸籍ハ戸籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ之ヲ編製ス

日本ノ國籍ヲ有セサル者ハ本籍ヲ定ムルコトヲ得ス

第七十一條 戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

戸籍吏ノ管轄地内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル三個以上ノ區畫アル場合ニ於テ

ハ其區畫ノ順序ハ戸籍吏之ヲ定ム

第七十二條 戸籍簿ハ正副二本ヲ設ク

戸籍簿ノ正本ハ之ヲ戸籍役場ニ備ヘ其副本ハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁

判所之ヲ保存ス

第七十三條 家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルモ

ノハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シテ帳簿ト爲シ之ヲ戸籍役場ニ保存ス

前項ノ帳簿ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第七十四條 第十二條乃至第十四條ノ規定ハ戸籍簿並ニ戸籍ノ謄本及ヒ抄本

ニ之ヲ準用ス

第六章 戸籍ノ記載手續

戸籍法 戸籍簿 戸籍ノ記載手續



第七十五條 戶籍ハ一戸毎ニ一本ヲ作ル

第七十六條 戶籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 戸主、前戸主及ヒ家族ノ氏名
- 二 戸主ノ族稱及ヒ本籍地但家族ト戸主ト族稱ヲ異ニスル場合ニ於テハ家族ニ付テモ其族稱ヲ記載スルコトヲ要ス
- 三 戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日
- 四 戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日但出生ニ因リテ家族ト爲リタル者ニ付テハ此記載ヲ要セス
- 五 戸主竝ニ家族ノ父母ノ氏名及ヒ其父母ト戸主又ハ家族トノ續柄
- 六 戸主ト前戸主トノ續柄及ヒ家族ト戸主トノ續柄但家族ノ中他家ヨリ入リテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者又ハ他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

- 七 他家ヨリ入りテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍地、原籍ノ戸主ノ氏名、族稱及ヒ其戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄
- 八 他家ヨリ入りテ家族ト爲リタル者ニシテ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト他ノ家族トノ續柄
- 九 戸主又ハ家族ノ身分ノ變更及ヒ其原因竝ニ年月日
- 十 後見人アル者ニ付テハ後見人ノ氏名、住所及ヒ後見人ノ就職竝ニ任務終了ノ年月日

第七十七條 戸主及ヒ家族ノ氏名ヲ戶籍ニ記載スルニハ左ノ順序ニ依ル

- 第一 戸主
  - 第二 戸主ノ直系尊屬
  - 第三 戸主ノ配偶者
  - 第四 戸主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者
  - 第五 戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者
- 戶籍法 戶籍ノ記載手續



第六 戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

直系尊屬、直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者ハ親族間ノ順位ニ依リ親族間ノ順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ其順序ヲ定ム

前二項ノ規定ハ戸主ノ親族ニ非サル者ノ記載ニ之ヲ準用ス

第七十八條 戸籍吏カ身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ次條以下ノ規定ニ從ヒテ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第七十九條 家督相續又ハ家督相續回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ基キテ新戸主ノ戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消シ且其戸籍ト新戸主ノ戸籍トニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ

要ス

胎兒カ家督相續入ナル場合ニ於テハ其出生ニ至ルマテ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ノミヲ抹消シ家督相續人ノ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十條 分家、廢絶家再興其他新ニ家ヲ立ツヘキ事件ノ登記ヲ爲シ又ハ轉籍若クハ無籍戸主ノ就籍ノ届出ヲ受理シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キテ戸籍ヲ編製シ轉籍届書ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製スルニハ第七十六條ニ掲ケタル事項ノ外各場合ニ付キ特殊ナル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 復籍拒絕ノ登記ヲ爲シタルトキハ復籍ヲ拒絕シタル者ノ戸籍ニ登記ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十二條 廢絶家ノ登記ヲ爲シタルトキハ最終戸主ノ戸籍ニ事由ヲ記載シ戸籍法 戸籍ノ記載手續 五百六十七



テ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十三條 單身戸主ノ死亡又ハ失踪ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其家ニ家督相續人ナキコト分明ナルトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡者又ハ失踪者ノ戸籍ニ絶家ノ原因及ヒ年月日ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十四條 戸籍吏ノ管轄地内ニ於ケル本籍地變更ノ届出ヲ受理シタルトキハ事由ヲ戸籍ニ記載シ舊本籍地ニ關スル記載ヲ抹消シ新本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十五條 前六條ノ場合ヲ除ク外身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キ第百七十六條ニ掲ケタル事項ヲ戸籍ニ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ第百八十條第二項ノ規定ニ依リテ戸籍ニ記載シタル事項ノ變更アルトキハ其變更ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十六條 戸籍ヲ編製シタル後一人又ハ數人ヲ戸籍ニ入ルヘキトキハ第百

七十七條ノ順序ニ拘ハラス戸籍ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ得

第百八十七條 一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ戸籍ニ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十八條 入籍ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ入籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ヲ送付スルト同時ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ通知スルコトヲ要ス

第百八十九條 除籍ノ手續ヲ爲スヘキ場合ニ於テ除籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後其通知ノ發送及ヒ受附ノ年月日ヲ戸籍ニ記載シテ除籍ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

轉籍ニ因リテ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外轉籍地及

戸籍法 戸籍ノ記載手續



七轉籍ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十條 身分登記又ハ戶籍ニ關スル届出ニ基キテ戶籍ノ記載ヲ爲ス場合ニ於テハ前十一條ニ規定シタル事項ノ外身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戶籍ニ關スル届書ノ受附年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十一條 第十八條、第二十九條及ヒ第三十一條ノ規定ハ戶籍ノ記載ニ之ヲ準用ス

第九十二條 戶籍用紙中ノ一部分ヲ用非盡シタルトキハ掛紙ヲ以テ用紙ニ充ツルコトヲ得

掛紙ヲ爲シタルトキハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第九十三條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ戶籍ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ改正シタルモノト看做ス

第九十四條 第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ニ依リテ戶籍ヲ編製シタル

トキハ戶籍吏ハ遲滞ナク其副本ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第七章 戶籍ニ關スル届出

第九十五條 戶籍吏ノ管轄地外ニ本籍ヲ轉セント欲スルトキハ戶主ヨリ左ノ諸件ヲ具シ戶籍ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ轉籍地ノ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

一 轉籍者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業

二 原籍地及ヒ轉籍地

前項ノ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

第九十六條 戶籍吏ノ管轄地内ニ於テ本籍地ヲ變更セント欲スルトキハ戶主ヨリ原籍地及ヒ新本籍地ヲ具シテ其旨ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

第九十七條 届出ノ闕漏其他ノ事由ニ因リ本籍ヲ有セス又ハ複本籍ヲ有スル者ハ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲サントスル戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

戶籍法 戶籍ニ關スル届出



第九十八條 就籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件

ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ就籍スヘキ地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 就籍スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日時、職業及ヒ就籍スヘキ地

二 就籍スヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ其者ト父母トノ續柄

三 本籍ヲ有セサリシ原因

四 就籍スヘキ者カ前ニ本籍ヲ有セシトキハ其舊本籍地

五 就籍スヘキ者カ戶主ナルトキハ其旨

六 就籍スヘキ者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱、職業及ヒ其者ト戶

主トノ續柄

七 就籍スヘキ者カ戶主及ヒ家族ナルトキハ戶主、家族ノ別及ヒ家族ト戶

主トノ續柄

八 就籍スヘキ者カ他家ヨリ入りテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ナルトキハ

其原籍地、原籍ノ戶主ノ氏名、族稱及ヒ其戶主ト就籍スヘキ者トノ續

柄

前項第六號及ヒ第七號ノ場合ニ於テ就籍スヘキ家族カ他家ヨリ入りテ他ノ家  
族ノ配偶者ト爲リタル者ナルトキ又ハ他ノ家族ヲ經テ戶主トノ親族關係ヲ有  
スル者ナルトキハ届書ニ其者ト戶主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載シ  
若シ他ノ家族トノ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ其者ト他ノ家族トノ續柄  
ノミヲ記載スルコトヲ要ス

第九十九條 除籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件

ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ除籍スヘキ地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 除籍スヘキ者ノ氏名、族稱、職業、本籍地及ヒ復本籍地

二 復本籍ヲ有セル原因

三 除籍スヘキ者カ本籍ト復本籍トニ於テ身分ヲ異ニスルトキハ本籍並ニ

復本籍ニ於ケル身分及ヒ其身分ノ異ナル原因

第二百條 就籍又ハ除籍スヘキ者カ家族ナルトキ又ハ戶主及ヒ家族ナルトキハ

戶籍法 戶籍ニ關スル届出



前二條ノ届出ハ戸主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百一條 第九十八條及ヒ第九十九條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百二條 第四十三條、第四十四條、第四十六條、第四十九條乃至第五十二條、第五十四條、第五十五條、第五十八條及ヒ第六十二條乃至第六十六條ノ規定ハ本章ノ届出ニ之ヲ準用ス

第八章 抗告

第二百三條 身分登記又ハ戸籍ニ關スル事件ニ付キ戸籍吏ノ處分ヲ不當トスル者ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四條 抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

抗告狀ニハ届書又ハ申請書及ヒ其他ノ關係書類ヲ添フルコトヲ要ス

第二百五條 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ戸籍吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百六條 戸籍吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル書類ヲ五日內ニ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第二百七條 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ其理由アリトスルトキハ戸籍吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ之ヲ戸籍吏及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第二百八條 裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第九章 罰則

第二百十條 本法ノ規定ニ依リ期間內ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ

戸籍法 抗告 罰則



十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二百十一條 期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササルニ因リ戸籍吏カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ尙ホ其届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處セラル二回以上戸籍吏ノ催告ニ應セサル者亦同シ

第二百十二條 戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 正當ノ理由ナクシテ身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ヲ受理セサルトキ
- 二 身分登記又ハ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百十三條 戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 正當ノ理由ナクシテ身分登記簿又ハ戸籍簿ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ
- 二 正當ノ理由ナクシテ身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ交付セス又ハ身分若クハ戸籍ニ關スル届出又ハ申請ノ受理ノ證明書ヲ交付セサルトキ

第二百十四條 本章ニ定メタル過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地カ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事

件手續法ノ規定ヲ準用ス

第二百十五條 自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戸籍ニ關シ詐偽ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ二十一年以上四年以下ノ重禁錮又ハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處セラル

附則

第二百十六條 市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲ以テ戸籍吏トシ其吏員ノ職務ヲ行フ役場ヲ以テ戸籍役場トス

市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スヘキ者ナキ地ニ在リテハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其事務ヲ代理スヘキ者ヲ定ム

市參事會員其他戸籍吏ノ職務ヲ行フヘキ吏員ナキ地ニ於テ此等ノ者ニ代ハリ

戸籍法 附則



テ戸籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者モ亦前項ノ手續ニ依リテ之ヲ定ム

第二百十七條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ハ之ヲ市町村ノ收入トス但

國庫ヨリ戸籍役場ノ經費ヲ支辨スル地ニ在リテハ之ヲ國庫ノ收入トス

手数料ノ金額ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百十八條 本法ノ規定ニ依リ届出入其他ノ者ノ署名、捺印ヲ要スル場合ニ

於テ其者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルト

キハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セ

ザルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セズ又ハ名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テ

寫シ書面ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二百十九條 明治三十一年十二月三十一日マテハ従前登記目録トシテ備ヘタ

形帳簿ヲ以テ身分登記簿ニ代用スルコトヲ得

第二百二十條 登記目録ノ冊數又ハ紙數カ身分登記簿ニ代用スルニ足ラサル場

合ニ於テハ明治三十一年十二月三十一日マテハ身分登記簿ニ限リ戸籍吏ハ第

九條ノ規定ニ拘ハラズ登記目録ヲ作製スルコト同一ノ手續ニ依リテ之ヲ作製ス

ルコトヲ得

前項ノ規定ハ登記目録ノ設テカリシ地ノ身分登記簿ニ之ヲ準用ス

第二百二十一條 本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキ時期ハ各地又ハ一般ニ付

キ司法大臣之ヲ定ム

本法施行後戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ於テハ其記載又

ハ編製ニ付テハ本法ノ規定ニ從フコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ其事

實ヲ知ルコト能ハサルモノ又ハ従前ノ戸籍用紙中其事項ヲ記載スヘキ區畫ノ

設ナキモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

第二百二十三條 明治四年四月四日布告戸籍法、明治十九年内務省令第十九號

及七同年内務省令第三十二號ハ寄留ニ關スル規定ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ

之ヲ廢止シ其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ同日ヨ

戸籍法 附則

五百七十九



之ヲ廢止スルノ旨令ニテ之ヲ本署ノ職掌ニ歸スルモノトシテ之ヲ同員ニ  
寄留ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ第五條ノ規定ヲ準用スルモノトシテ之ヲ  
第三百二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●戸籍法取扱手續

(明治三十一年七月十三日)  
司法省訓令第五號

戸籍法取扱手續左ノ通相定ム

戸籍法取扱手續

第一條 身分登記簿ノ用紙ハ美濃十三行罫紙トシ其登記例ハ附錄第一號書式ノ  
振合ニ依ルヘシ  
第二條 戸籍簿ノ用紙ハ附錄第二號様式ニ依リ其記載例ハ附錄第三號書式ノ振  
合ニ依ルヘシ

第三條 戸籍吏ハ毎年十月三十一日マテニ翌年ノ身分登記簿下爲スヘキ帳簿ニ  
附錄第四號書式ノ請求書ヲ添ヘ之ヲ監督區裁判所ニ送付スヘシ

第四條 市町村ノ戸籍簿ヲ二册以上ニ分綴シタルトキハ其表紙ニ番號又ハ大字  
等ヲ附記スヘシ

第五條 戸籍役場ニ於テハ毎年受附帳ヲ製シ置キ身分及ヒ戸籍ニ關スル届出、  
報告其他ノ書類ヲ受附タル順序ニ從ヒ之ニ其件名、差出人、受附ノ年月日及  
ヒ番號ヲ記入スヘシ

第六條 身分登記簿、戸籍簿及ヒ届書其他之ニ關スル書類ハ總テ鎖鑰アル書類  
ニ藏メ其保管ヲ嚴ニシ倉庫ノ設ケアルモノハ倉庫ニ藏メ置クヘシ

第七條 身分登記簿及ヒ戸籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ戸籍吏ハ遲  
滞ナク其事由、年月日、帳簿ノ册數、市町村名等ヲ詳細ニ記載シ監督區裁判  
所判事ニ申報スヘシ

監督區裁判所判事カ前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ相當ノ調査ヲ爲シタル後之  
ヲ管轄地方裁判所長及ヒ司法大臣ニ具申スヘシ

第八條 戸籍簿ヨリ除キタル戸籍ハ一个年毎ニ編綴シテ其表紙ニ明治何年除籍  
戸籍法取扱手續

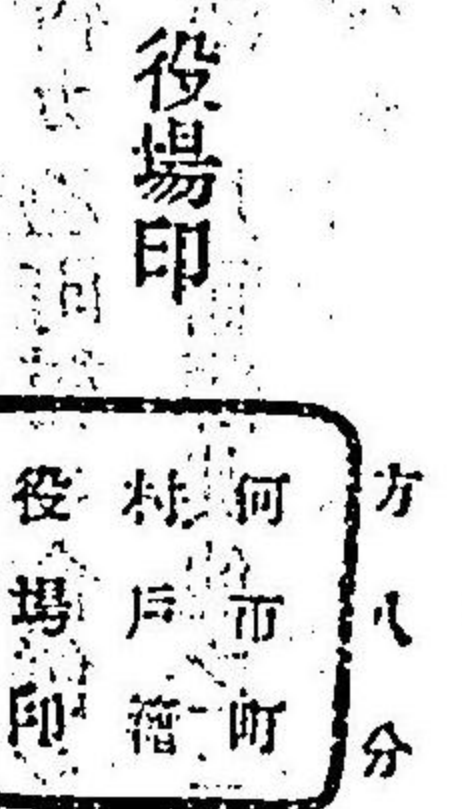
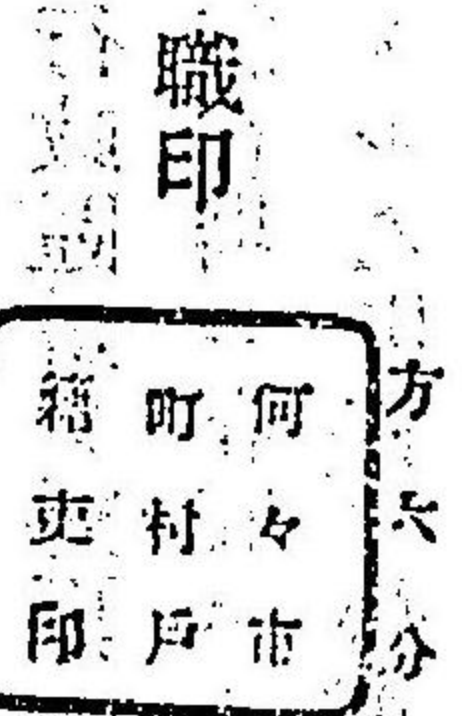






第十八條 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル疑義ハ戸籍吏ヨリ監督區裁判所ヲ經由シテ司法大臣ニ稟伺スルコトヲ得

第十九條 戸籍役場ニハ左ノ印章ヲ備フヘシ



(附録書式様式略ス)

●東京、京都、大阪市ニ於ケル戸籍吏

東京市、京都市及ヒ大阪市ノ各區ニ於テハ區長ヲ以テ戸籍吏トス

(明治三十一年七月十二日 司法省令第十二號)

●戸籍法ニ依リ納付スヘキ手数料

(明治三十一年七月十二日 司法省令第十三號)

戸籍法ニ規定ニ依リテ納付スル手数料ノ金額左ノ通相定ム

第一條 身分登記簿又ハ戸籍簿ノ閱覽ヲ請求スル者ハ金拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 身分登記又ハ戸籍簿ノ謄本若クハ抄本ヲ請求スル者ハ一枚ニ付キ金拾錢

ヲ納ムヘシ其一枚ニ滿タサルモノト雖モ亦同シ但枚數ハ原本ニ依リ之ヲ計算

第三條 身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ノ受理ノ證明書ヲ請求スル者ハ

一件ニ付キ金五錢ヲ納ムヘシ

第四條 手数料カ國庫ノ收入ト爲ルヘキ場合ニ於テハ前三條ノ請求ハ書面ヲ以

テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル手数料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

東京、京都、大阪市ニ於ケル戸籍吏 戸籍法ニ依リ 五百八十五 納付スヘキ手数料



●處刑ニ依リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於ケル報告ノ件  
(明治三十一年八月十二日)  
(司法省訓令第六號)

裁判所 檢事局 戶籍役場

既決犯罪事件ニ關シテハ明治二十五年(二月)當省參刑甲第四一號ノ乙訓令ニ基キ檢事局ヨリ犯人本籍地ノ戶籍吏ニ通知ヲ爲スヘキヲ以テ處刑ニ因リ族稱ヲ失ヒタルモノニ付テハ此通知ヲ以テ戶籍法第百六十六條但書ノ報告ト看做スヘシ  
(參照) 司法省參刑甲第四一號ノ乙訓令  
一 自今重罪、輕罪ノ刑ハ言渡確定シタルトキハ刑ノ執行ヲ爲スヘキ裁判所檢事局ハ郵便端書ニ別紙第一雛形ニ倣ヒ氏名其他ノ事項ヲ記載シ犯人本籍地管轄市、區役所又ハ町、村役場ヲ通知セシム可シ若シ右管轄市、區役所又ハ町、村役場ヨリ戶籍簿等ト相違ノ廉回報アリタルトキハ調査ノ上其旨當省ヘ申報ス可シ

明治十四年丁第三十三號達ニ從ヒ犯人本籍地ノ裁判所檢事ニ送致ス可キ既決犯罪表ハ別紙第二雛形ニ依リ之ヲ取扱フ可シ但同達文中其旨ヲ犯人本籍地ノ戶長ニ通知シテ十六字ヲ削除スル等ノ事項ハ別紙第三雛形ニ倣ヒ右訓令ス(別紙雛形略ス)

●年齡計算ニ關スル件  
(明治三十五年十一月一日)  
(法律第五十號)

年齡ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス  
民法第百四十三條ノ規定ハ年齡ノ計算ニ之ヲ準用ス  
明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

●氏名改稱出願方  
(明治五年八月二十四日)  
(太政官布告第二百三十五號)

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名竝屋號共改稱不相成候事  
處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於ケル報告ノ件 五百八十七  
年齡計算ニ關スル件 氏名改稱出願方



但同苗同名等無餘義差支有之者ハ管轄廳へ改名可出願事（九年第五號布告ヲ以テ但書改正）

○太政官布告 明治五年八月二十四日 第一一三三六號

府縣へ

人民一般改稱ノ儀二百三十五號ノ通御布告相成候ニ付テハ華族及奏任以上ハ可伺出其餘ハ各管轄廳ニ於テ事實取調ノ上聞届可申事

●族稱廢絶ノ件

（明治十三年一月二十九日）  
太政官布告第三號

華士族當主死亡後相續人無之親族協議ノ上家名預リ置道テ相續人ヲ定ムルハ當主死亡後日數五十日ヲ過クヘカラズ若不得已事情有之親族連印管轄廳へ延期願出ルモ以テ更ニ相當ノ猶豫ヲ與フルト雖モ死亡後六ヶ月ヲ過キ仍ホ相續人ヲ届出サルトキハ其族稱ハ廢絶候儀ト可相心得此旨布告候事

●外國ニ於テ婚姻ヲ爲ストキ證明書ニ關スル件

（明治三十三年七月十六日）  
司法省令第二十五號

帝國臣民外國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスルニ方リ帝國ノ法律ニ依テ其婚姻ノ障礙ト爲ルヘキ事項ノ存セサル旨又ハ婚姻ヲ爲ス男カ其婚姻ニ因リ日本ノ國籍ヲ喪失スルコトナク之ヲ其妻及ヒ嫡出子ニ取得セシムルコトヲ得ル旨ヲ證スル當該吏員ノ證明書ヲ差出スコトヲ要スル場合ニ於テハ本籍地ノ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ニ證明書ノ下付ヲ申請スルコトヲ得但婚姻ニ付キ戸主、父母、後见人又ハ親族會ハ同意ヲ要スル場合ニ於テハ申請書ニ同意シ證書ヲ添附スルコトヲ要ス

市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ハ證明書下付ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シタル證明書ヲ下付スルコトヲ要ス

族稱廢絶ノ件 外國ニ於テ婚姻ヲ爲ストキ證明書 五百八十九  
ニ關スル件



●身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程

(明治三十五年七月二十四日) 司法省令第二十一號

身分登記戶籍及ヒ寄留ニ關スル書類保存規程左ノ通相定ム

第一條 身分登記及ヒ戶籍ニ關スル戶籍役場ノ帳簿及ヒ書類ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ保存スヘシ

第一 除籍簿

一、二十年以前ノ除籍簿ハ、本籍地ニ於テ、五十年保存スヘシ

二、戶籍ニ關スル届書、許可書及ヒ附屬書類ハ、二十年保存スヘシ

三 受附帳

一、二十年以前ノ受附帳ハ、本籍地ニ於テ、三十年保存スヘシ

四 請求、告知、催告又ハ通知ニ關スル帳簿及ヒ書類ハ、三十年保存スヘシ

第二條 戶籍法第二百二十一條第一項ニ依リ戶籍ヲ改製シタル場合ニ於テ、原

戶籍ヲ五十年間保存スヘシ

第三條 出入寄留ニ關スル届書、除帳簿及附屬書類ハ、五年間之ヲ保存スヘシ

第四條 戶籍法第三十八條第一項ニ依リ戶籍役場ヨリ區裁判所ニ送付シタル書

類ハ十年間之ヲ保存スヘシ

第五條 地方裁判所ニ保存スル戶籍ノ副本ハ、其正本カ家督相續、廢絶家其他ノ

事由ニ因リ抹消セラレ又ハ戶籍法第二百二十一條第一項ニ依リ改製セラルル

事ニ關シテ之ヲ保存スヘシ

第六條 第一條、第三條及ヒ第四條ノ帳簿及ヒ書類ノ保存期間ハ、當該年度ノ翌

年ヨリ之ヲ起算シ、第二條ノ原戶籍ノ保存期間ハ、改製終了ノ翌年ヨリ之ヲ起算

ス

第七條 區裁判所判事、戶籍吏又ハ市、區、町村長、市、區、町村長ナキ地ニ於

テハ、其職務ヲ行フ吏員、保存期間ヲ經過シタル帳簿又ハ書類ヲ廢毀セントスルトキハ、目錄ヲ作り、地方

裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ、但戶籍吏又ハ市、區、町村長カ認可ヲ請フトキハ、

監督區裁判所ヲ經由スヘシ

附 則 一、本規程ニ關スル施行細則ハ、別表ニ示スル如ク之ヲ制定ス

身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程



第八條 後見人ニ關スル戶籍法施行前ノ帳簿及ヒ書類ハ常該年度ノ翌年ヨリ五十年間之ヲ保存スヘシ

第九條 登記目錄ハ當該年度ノ翌年ヨリ三十年間之ヲ保存スヘシ  
第十條 區裁判所ニ於テ戶籍法施行ノ際郡役所等ヨリ引繼テ受ケタル戶籍ニ關スル届書ハ戶籍法施行前ニ編製シタル戶籍カ家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ抹消セラレ又ハ戶籍法第二百二十一條第一項ニ依リ改製セラルルマテ之ヲ保存スヘシ

第十一條 第一條、第二條及ヒ第五條乃至第七條ノ規定ハ戶籍法施行前ノ除籍簿、原戶籍簿、戶籍ノ副本其他ノ帳簿及ヒ書類ニ之ヲ準用ス

●寄留ニ關スル現行ノ規定

○太政官布告明治五年正月 寄留者ノ事 凡寄留スル者ノ届書ハ官員神官華

主族、卒僧尼舊神官ハ當人「兵隊ハ隊長」平民ハ戶主傭主請人ノ内ニテ證印シ且

寄留ノ地ニ於テ一戶ヲナセシ者ハ其管下ノ者同様届書へ屋敷番號ヲ記シ其區戶長へ届ケシムヘシ「戶長ハ總體ノ届書ヲ集メ式ノ如ク寄留總計ヲ作り其廳へ出シ其廳之ヲ受ケ寄留表へ書載ス可キ事」

○内務省令明治十九年九月「明治四年四月四日布告戶籍法第五則出生死去

出入等届出方」及明治五年(正月)第四號布告第八項寄留者届出方左ノ通相定メ來十二月一日ヨリ施行ス

第六條 他府縣又ハ他都市區他町村ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戶長ニ届出且同時ニ本籍地戶長へ届書ヲ發送スヘシ(二十九年內務省令第十一號ヲ以テ改正)  
第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戶長ニ届出へ

寄留ニ關スル現行ノ規定



第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戶主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第九條 外國ニ渡航スルトキハ戶主又ハ本人ヨリ出發前ニ届出歸朝シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ(二十九年內務省令第十一號ヲ以テ追加)

第十條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

○內務省令 明治十九年十月二十二號(抄録)

戶籍取扱手續左ノ通相定ム

寄留

第二十條 他府縣又ハ他郡市區他町村ヨリ寄留シタルノ届出アルトキハ入寄留簿ニ登記スヘシ其登記ハ總テ戶籍ノ例ニ依ル(二十九年內務省令第十一號ヲ以テ改正)

第二十一條 入寄留簿ハ左ノ三種ニ分チ一種毎ニ之ヲ編製シ且一種中ニ一世帯

ヲ爲ス者ト然ラサル者トチ區別編製スヘシ但一世帯ヲ爲ササル者ハ一帳簿ニ列記スルモ妨クナシ(同上省令ヲ以テ改正)

一 他府縣入寄留簿

一 他郡市區入寄留簿

一 他町村入寄留簿

第二十二條 寄留地ヲ去リタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其入寄留人名ニ朱線ヲ畫シ其別葉ヲ爲スモノハ便宜之ヲ除帳簿ニ移スヘシ

第二十三條 他府縣又ハ他郡市區他町村ヘ寄留シタルノ届書到達シタルトキハ出寄留簿ニ列記スヘシ(二十九年內務省令第十一號ヲ以テ改正)

第二十四條 出寄留者復歸シタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其人名ニ朱線ヲ畫スヘシ

寄留ニ關スル現行ノ規定



○内務省訓令 明治二十九年六月 明治十九年(九月)内務省令第十九號ニ依

ル寄留届寄留者復歸届取扱方左ノ通定ム

- 一 入寄留ノ届出アルトキハ市長(東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下同シ)町  
村長ハ戶籍取扱手續第二十條ノ手續ヲ了シタル後其届書ニ年月日登記濟ノ旨  
ヲ記入シ其職印ヲ押捺シ直ニ之ヲ寄留人本籍地ノ市町村長ニ送付スヘシ
- 一 出寄留ノ届出アルトキハ市町村長ハ戶籍取扱手續第二十三條ノ手續ヲ了シタ  
ル後前項寄留地ヨリ發送ノ届書到達スヘキ日數ヲ經タルモ猶到達セサルト  
キハ其出寄留届書ニ前項ノ如ク記入捺印シ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スヘ  
シ
- 一 寄留者本籍ニ歸リタル届出アルトキハ市町村長ハ戶籍取扱手續第二十四條ノ  
手續ヲ了シタル後其届書ニ前項ノ如ク記入捺印シ直ニ之ヲ其元寄留地ノ市町  
村長ニ送付スヘシ

●臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及ヒ出產死亡等ニ關

スル届出方

(明治三十二年八月四日) 臺灣總督府令第八十八號

臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及出產死亡等ニ關スル届出方左ノ通相定ム

第二條 内地人ニシテ臺灣ニ居住スル者ハ居住ノ日ヨリ又住居ノ目的ニアラス

ト雖モ同一地區内ニ九十日以上滯留スル者ハ九十日ノ末日ヨリ十日内ニ左ノ

事項ヲ記載シタル寄留届ヲ所轄警察官署ニ差出スヘシ

- 一 氏名
- 二 生年月日
- 三 寄留所
- 四 原籍
- 五 族稱職業
- 六 戶主非戶主ノ區別(非戶主ニ就テハ戶主トシテ續柄) 臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及ヒ出產死亡等ニ關 五百九十七  
スル届出方



七 家族携帯者ニアリテハ其家族ノ氏名、生年月日及戸主トノ續柄

第二條 寄留者ニシテ左ニ記載シタル事項ニ該當シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一 出産アリタルトキ

二 死者アリタルトキ

三 失踪者アリタルトキ

四 國籍喪失者アリタルトキ

五 氏名、生年月日及原籍ノ變更アリタルトキ

六 同一地區内ニ於テ寄留所ヲ變更シタルトキ

第三條 寄留者ニシテ原籍地ニ歸ルカ又ハ寄留所ヲ同一地區外ニ變更スルトキ

ハ退去マテニ其旨ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第四條 前三條ノ事項ニ關シ警察官吏ノ尋問ヲ受ケタル者ハ之ニ答フヘシ

第五條 前各條ノ届出ハ單身者ニアリテハ自身、家族携帯者ニアリテハ戸主、

戸主ナキトキハ其中ノ主宰タル者ニ於テ爲スヘキモノトス但單身者ニシテ第二條ノ二號三號ニ該當スル場合ハ一戸ヲ構ヘタル者ナルトキハ地主(借地ナルトキ)又ハ家主(借家ナルトキ)一戸ヲ構ヘサル者ナルトキハ寄留所主宰者ニ於テ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一戸ヲ構ヘサル寄留者ノ届書ニハ總テ寄留所主宰者ノ連署ヲ要ス

第六條 第一條第二條第三條ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條ニ違背シテ警察官吏ノ尋問ニ答ヘス又ハ答フルニ實ヲ以テセサル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第七條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス  
臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及ヒ出産死亡等ニ關 五百九十九  
スル届出方



明治二十九年日令第二十二號ハ本令施行之日ヨリ廢止ス

●國籍法

(明治三十二年三月十五日) 法律第六十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國籍法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國籍法

- 第一條 子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ之ヲ日本人トス其出生前ニ死亡シタル父カ死亡ノ時日本人ナリシトモ亦同シ
- 第二條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ前條ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス
- 前項ノ規定ハ父母ガ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
- 第三條 父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス
- 第四條 日本ニ於テ生マレタル子ノ父母ガ共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサ

國籍法



ルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス  
第五條 外國人ハ左ノ場合ニ於テ日本ノ國籍ヲ取得ス

一 日本人ノ妻ト爲リタルトキ

二 日本人ノ入夫ト爲リタルトキ

三 日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキ

四 日本人ノ養子ト爲リタルトキ

五 歸化ヲ爲シタルトキ

第六條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スルニハ左ノ條件ヲ具備スル

コトヲ要ス

一 日本國法ニ依リテ未成年者タルコト

二 外國人ノ妻ニ非サルコト

三 父母ノ中先ツ認知ヲ爲シタル者カ日本人ナルコト

四 父母カ同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコト

第七條 外國人ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ歸化ヲ爲スコトヲ得

内務大臣ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ非サレハ其歸化ヲ許可スルコトヲ得ス

一 引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト

二 滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト

三 品行端正ナルコト

四 獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルキ資産又ハ技能アルコト

五 國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト

第八條 外國人ノ妻ハ其夫ト共ニスルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 左ニ掲ケタル外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第

一號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

一 父又ハ母ノ日本人タリシ者

二 妻ノ日本人タリシ者

三 日本ニ於テ生マレタル者



四 引續キ十年以上日本ニ居所ヲ有スル者

前項第一號乃至第三號ニ掲ケタル者ハ引續キ三年以上日本ニ居所ヲ有スルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ズ但第三號ニ掲ケタル者ノ父又ハ母カ日本ニ於テ生マレタル者ナルトキハ此限ニ在ラズ

第未條 外國人ノ父又ハ母カ日本人ナル場合ニ於テ其外國人カ現ニ日本ニ僱傭ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號、第二號及ヒ第四號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

第十一條 日本ニ特別ノ功勞アル外國人ハ第七條第二項ノ規定ニ拘ハラズ内務大臣勅裁ヲ經テ其歸化ヲ許可スルコトヲ得

第十二條 歸化ハ之ヲ官報ニ告示スルコトヲ要ス  
歸化ハ其告示アリタル後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十三條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ妻ハ夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス

前項ノ規定ハ妻ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

第十四條 日本ノ國籍ヲ取得シタル者ノ妻カ前條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ取得セサリシトキハ第七條第二項ニ掲ケタル條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ子カ其本國法ニ依リテ未成年者ナルトキハ父又ハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス

前項ノ規定ハ子ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

第十六條 歸化人、歸化人ノ子ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者及ヒ日本人ノ養子又ハ入夫ト爲リタル者ハ左ニ掲ケタル權利ヲ有セス

- 一 國務大臣ト爲ルコト
- 二 樞密院ノ議長、副議長又ハ顧問官ト爲ルコト
- 三 宮内勅任官ト爲ルコト
- 四 特命全權公使ト爲ルコト

國籍法



五 陸海軍ノ將官ト爲ルコト

六 大審院長、會計検査院長又ハ行政裁判所長官ト爲ルコト

七 帝國議會ノ議員ト爲ルコト

第十七條 前條ニ定メタル制限ハ第十一條ノ規定ニ依リテ歸化ヲ許可シタル者

ニ付テハ國籍取得ノ時ヨリ五年ノ後其他ノ者ニ付テハ十年ノ後内務大臣勅裁

ヲ經テ之ヲ解除スルコトヲ得

第十八條 日本ノ女カ外國人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者ハ離婚又ハ離

縁ノ場合ニ於テ其外國ノ國籍ヲ有スベキトキニ限り日本ノ國籍ヲ失フ

第二十條 自己ノ志望ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失

フ

第二十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子カ其者ノ國籍ヲ取得シタルト

キハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十二條 前條ノ規定ハ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻

及ヒ子ニハ之ヲ適用セス但妻カ夫ノ離縁ノ場合ニ於テ離婚ヲ爲サス又ハ子カ

父ニ隨ヒテ其家ヲ去リタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 日本人タル子カ認知ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本

ノ國籍ヲ失フ但日本人ノ妻、入夫又ハ養子ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 滿十七年以上ノ男子ハ前五條ノ規定ニ拘ハラズ既ニ陸海軍ノ現役

ニ服シタルトキ又ハ之ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハ

ス

現ニ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ前六條ノ規定ニ拘ハラズ其官職ヲ失ヒタル後ニ

非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

第二十五條 婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所

ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得

第二十六條 第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者



カ日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得但第十六條ニ掲ケタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ハ此限ニ在ラズ

第二十七條 第十三條乃至第十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第二十八條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國籍喪失者ノ權利ニ關スル件

(明治三十一年三月二十八日)  
法律第九十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國籍喪失者ノ權利ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本ノ國籍ヲ失ヒタル家族カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年內ニ之ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ國庫ニ歸屬ス

ス

●外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件

(明治三十一年七月九日)  
法律第二十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治六年第三百三號布告改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治六年第三百三號布告左ノ通改正ス

第一條 日本人カ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スニハ内務大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二條 内務大臣ハ外國人カ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ前條ノ許可ヲ與フルコトヲ得ス

一 引續キ一年以上日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル者トシ

二 品行端正ナル者トシ又ハ入夫ト爲スル者ハ出願手續ニ關スル件  
國籍喪失者ノ權利ニ關スル件 外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件 外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サン  
トスル者ノ出願手續ニ關スル件 六百九



外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ノ出願手  
六百十一

續ニ關スル件 (明治三十二年九月十四日)  
內務省令第五十一號

明治三十一年法律第二十一號ニ依リ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ハ  
本籍地又ハ寄留地地方廳ヲ經由シテ內務大臣ニ願出ツヘシ  
本年法律第六十六號ニ依リ歸化ヲ爲シ又ハ國籍ヲ回復セントスル者ハ其ノ住所  
ノ地方廳ヲ經由シテ內務大臣ニ願出ツヘシ

外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ノ出願手  
六百十一

●供託法 (明治三十二年二月七日)  
法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル供託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 供託法

第一條 本法ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管

第二條 金庫ニ供託ヲ爲スル者ハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供

託書ヲ作シ供託物ニ添ヘテ之ヲ差出タスコトヲ要ス

第三條 金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ

定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス

第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ

償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從下シテ之ヲ保管ス但

保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當

供託法



金之拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物

品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ

保管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業者ニ供託ヲ爲サンコト欲スル者ハ司法大臣力定メタル書式ニ依

リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求

スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタ

ル者ニ之ヲ還付ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト、供託力錯誤ニ出テシコト

又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得

ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セザル者ヲ指定シタルトキハ其供託

ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其

給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明ス

ルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マ

テ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條 第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ

亦之ヲ適用ス

第十四條 明治二十三年勅令第四百十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢

供託法



●供託物取扱規程

(明治三十二年三月十六日)  
(大藏省令第六百號)

供託物取扱規程左ノ通相定メ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十條 明治三十二年法律第十五號供託法ニ從ヒ金庫ニ於テ保管スル供託物ハ

此ノ規程ニ依テ取扱フモノトス

第二條 此ノ規程ニ於テ供託物ト稱スルハ法律命令中供託ヲ明記セラレタル場

合ニ於テ保管スヘキ金錢、有價證券ヲ謂フ

第三條 供託ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ明示シタル第一號書式ヲ供託書ニ

通テ作り之ニ供託物ヲ添ヘ金庫ヘ提出スヘシ

第一 供託者ノ住所氏名官吏公吏ノ公務上取扱フ場合ハ其ノ官廳名官氏名又

ハ職氏名但シ代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名

第二 供託セントスル金額

有價證券ハ其ノ種類記號番號券面額枚數但シ全額拂込未済ノモノハ券面額

ノ左側ニ其ノ拂込濟額ヲ記入スルコトヲ要ス

第三 供託ノ原因(事實ヲ詳記スルノ外利害關係人ノ法律上ノ位置及氏名)

第四 供託スヘキ法令ノ條項

第五 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ法律上ノ位置

(質權者、抵當權者等特ニ其ノ名稱ヲ記スルコトヲ要ス)及氏名住所官廳名官氏名又ハ

職氏名

第六 供託物ヲ受取ル可キ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ

反對給付ノ目的物

第七 官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託スルトキハ其ノ官廳名若シ訴訟

ニ關スルトキハ其ノ件名及裁判所名

第四條 金庫ニ於テ前條ノ供託ヲ受タルトキハ之ヲ調査シ其ノ要件ヲ具備シ

供託物取扱規程



送金手形若クハ郵便爲替券等ヲ以テ供託書ト共ニ金庫ニ送付スルコトヲ得

第五條 供託物ハ郵便ニ依リ寄託スルコトヲ得但シ供託物カ金錢ナルトキハ供託者ノ危険負擔ヲ以テ銀行ノ送金手形若クハ郵便爲替券等ヲ以テ供託書ト共ニ金庫ニ送付スルコトヲ得

第六條 金庫ニ於テ前條ニ依リ送金手形若クハ爲替券等ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタル後第四條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スモノトス

第七條 供託物ヲ受取ルヘキ者ニ於テ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取方ヲ請求セントスルトキハ第二號書式ノ請求書ニ通テ作りテ金庫ヘ提出スヘシ

保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者ニ於テ前項ノ請求ニ依リ金庫ニ保管セラレタル其ノ利息又ハ配當金ヲ受取ラントスル者ハ第八條ノ附屬供託物受領證ニ式ノ如ク領收ノ奥書ヲ爲シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

保證金ニ代ヘテ利札付有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ本條第一項ノ手續ニ依ラス直チニ其ノ利札ヲ受取ルコトヲ得但シ此場合ハ第三號書式ノ領收證書ヲ作り利札ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第八條 金庫ニ於テ前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ償還金ハ代供託物利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管シ請求書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ請求者ニ交付スヘシ

前條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ附屬供託物ヲ交付シ第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ利札ヲ交付スヘシ

第九條 供託法第八條ニ規定スル供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ作り第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ト共ニ金庫ヘ提出ス可シ但シ全部ノ拂渡ヲ要スルトキハ其ノ受領證ニ式ノ如ク奥書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書



式ノ領收證書ヲ提出スルコトヲ要ス

第一 供託者ガ指定シタル者ハ其ノ供託通知書

第二 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書

第三 裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正本又ハ裁判所ノ命令

書

前項ノ拂渡ヲ請求スル者ガ反對給付ヲ爲スヘキ者ナルトキハ其ノ給付ヲ爲

シタル金錢並ニ證券若クハ物件ノ數量等ヲ表示シタル左ニ掲クル者ノ證明書

當チ仍ホ提出スルコトヲ要ス

第一 供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ金庫又ハ倉庫營業者ノ作ルタル供

託受領ヲ證スル書類

第二 反對給付ヲ受クヘキ者ニ給付ヲ爲シタルトキハ供託者ノ書面又ハ判決

ノ正本

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ

依リ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ヲ提出シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スル

シ

第一 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ表示シタル債權者

ノ書面

第二 供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ於テハ其ノ判決書

ノ正本

第三 第一第二ノ場合ニ於テ供託カ質權又ハ抵當權ノ消滅ニ關スルモノナル

トキハ其ノ質權又ハ抵當權ノ消滅セサリシコトヲ證明シ得ヘキ書類

第四 供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ

證明スルニ足ルヘキ書類又ハ判決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保ト

シテ供託シタルモノナルトキハ其ノ官廳又ハ裁判所ノ證明但シ官吏公吏ノ

公務上取扱フモノナルトキハ其ノ事由ヲ表示シタル書面

供託物取扱規程



第十一條 前二條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類其ノ他原由ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコト能ハサル正當ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代ヘテ金庫ノ承諾ヲ得タル二名以上ノ保證人ノ連署ヲ以テ其ノ供託物拂戻ノ爲メ政府ニ損害ヲ生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スル旨記載シタル書面ヲ提出スルコトヲ得

第十三條 金庫ニ於テ第九條第十條ニ依レル拂渡請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ請求ノ理由アルコトヲ確認シタル後供託物ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ幾分ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク其ノ拂渡額ヲ記入シ請求者ニ返還スヘシ

第十三條 官廳又ハ裁判所ニ於テ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ金庫ニ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ受取人ニ交付スヘシ(三十四年大藏省令第十七號ヲ以テ本項中改正)

受取人ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク受領ヲ證シ供託物ノ拂渡ヲ請求スヘシ

第十四條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂渡證書ト引換ニ供託物ヲ受取人ニ交付スヘシ但シ其ノ拂渡カ幾分ニ係ルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク拂渡額ヲ記入シ請求官廳又ハ裁判所ニ返還スヘシ(同上)

第十五條 供託法第三條ニ規定スル供託金ノ利息ハ其ノ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ヲ受取人ト利息受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

第十六條 供託法第三條ニ依リ利息ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ第八號書式ノ請求書ヲ金庫ニ提出スヘシ

第十七條 金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計算シ式ノ如ク之ヲ記入シ中央金庫ニ在テハ日本銀行ニ在テハ日本銀行ノ支店、代理店ニ之ヲ回付スヘシ

供託物取扱規程



日本銀行又ハ其ノ支店、代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利息受取人ヲシテ式ノ如ク受領ヲ證セシメ其ノ現金ヲ交付スヘシ

第十七附 則

第十八條 此ノ規程施行前ニ爲シタル供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反對給付ヲ受

第十九條 明治二十六年當省令第三十一號供託物取扱規程其ノ他此ノ規程ニ牴

第十九條 明治二十六年當省令第三十一號供託物取扱規程其ノ他此ノ規程ニ牴觸スルモノハ此ノ規程施行之日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十條 供託書(用紙寸法美濃判)ニ於テ紙數二枚以上三枚以下トキハ

第二十一條 供託書(金錢ト有價證券トハ各)ニ於テ紙數二枚以上三枚以下トキハ

府縣郡市町村番地

供託者

(第三者ニ於テ供託ヲ爲ストキ)ハ供託者第三者ト記入ス

- 一金何圓也
- 又何々公債證書額面何圓也(金額ト有價證券トハ各)何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚
- 但何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ)
- 又何銀行又ハ何會社株券額面何圓也
- 記號番號枚數記載方前ニ同シ
- 又何々
- 前ニ同シ
- 供託ノ原因
- 供託スヘキ法令ノ條項
- 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定
- 反對給付ノ目的物
- 供託物取扱規程



官廳名又ハ訴訟事件名及裁判所名

右供託ノ...

年月日

右

何

某 匣

何金庫宛

(受領書式)

第何號

又 右受領ス

年月日

何

金 庫 匣

(奥書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

一 金 年 月 日

府縣郡市町村番地

受取人 何 某 匣

何金庫宛

(内渡書式)

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何

(種類多數ナルトキハ別ニ内譯書ヲ添付スルモ妨ケナシ此場合ニハ本文高書ノ箇所ヘ公債證書其他額面何圓也別紙内譯書ノ通ト記入シ内譯書ト契印スヘシ)

右金額(又ハ有價證券)何年何月何日内渡濟

何 金 庫 匣

供託物取扱規程

六百二十五



請求書

(代供託物ト附屬供託物トハ各別ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

一金何圓也

(所得税法第三條ノ稅額ヲ控除シ其殘額ヲ記載スルモノトス)

何々公債證書(又ハ何々銀行株券)(又ハ何會社株券)何圓何年何月(又ハ何期)渡利息(又ハ配當金)(又ハ何年何月償還金)何年何月何日第何號供託受領證ノ分

前書金額御受取相成度(又ハ別紙委任狀相添)請求候也

年月日

府縣郡市町村番地

何 某 印

何金庫宛

(受領ノ書式)

第何號

右代供託物(又ハ附屬供託物)トシテ受領ス

年月日

何 金 庫 印

(奥書ノ式)

前書ノ金額正ニ領收候也

年月日

府縣郡市町村番地

何 某 印

何金庫宛

(内渡ノ書式)

表書金額ノ内

一金何圓也

右金額何年何月何日内渡濟

(受領證ノ餘白ニ記入シ難キトキハ繼紙ヲナスヘシ)

何 金 庫 印

供託物取扱規程



第三號書式

利札領收證書

一利札券面額何圓也  
何 枚  
但何年何月何日第何號供託受領證ノ何公債證書又ハ何銀行若クハ  
何會社債券額面何圓ニ對スル何年何月又ハ何期渡ノ分  
右領收候也

年月日  
府縣郡市町村番地  
供託者 何 某 印  
何金庫宛

第四號書式

供託物拂渡請求書

一 金何圓也  
一 何々公債證書額面何圓也  
何圓券何第何番又ハ何第  
何番ヨリ第何番マテ何枚  
何圓券何第何番又ハ何第  
何番ヨリ第何番マテ何枚  
何圓券何第何番又ハ何第  
何番ヨリ第何番マテ何枚  
何圓券何第何番又ハ何第  
何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同 記號番號枚數記載方  
前ニ同シ

又ハ

一何々

同 前ニ同シ

前書ノ金額(又ハ有價證券)供託者ノ指定ニ依リ又ハ何年法律勅令何省

令第何號ニ依リ若クハ裁判ニ依リ

受度別紙證明書並ニ供託受領證相添請求候也

年月日

府縣郡市町村番地

受取人(又ハ供託者) 何 某 印

何金庫宛

供託物取扱規程



第五號書式

領收證書

(供託受領證一葉毎ニ領收證書ヲ作成スルコトヲ要ス)

何年何月何日第何號供託受領證ノ内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

受取人 何 某 印

何金庫宛

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

同 記號番號枚數記載方

前ニ同シ

同 前ニ同シ

第六號書式 (三十四年大藏省令第十七號ヲ以テ本書式中改正)

請求書

(供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

府縣郡市町村番地

供託者 何 某

何年何月何日第何號受領證

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

内

金何圓也

供託物取扱規程

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

同 記號番號枚數記載方

前ニ同シ

同 前ニ同シ



又ハ

何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同 記載番號枚數記載方  
前ニ同シ

又ハ

何々

同

前ニ同シ

府縣郡市町村番地

受取人 何 某

右ハ何々ノ事由ニ依リ内譯ノ通拂渡證書發行候ニ付分割拂渡スコトヲ要ス  
依テ別紙供託受領證相添請求候也

年月日

官廳又ハ裁判所名

官氏名

何金庫宛

第七號書式(同上)

拂渡證書

府縣郡市町村番地

供託者 何 某

何年何月何日第何號受領證ノ内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同 記號番號枚數記載方  
前ニ同シ

又ハ

一何々

同  
前ニ同シ

供託物取扱規程



右金額(又ハ有價證券)府縣郡市町村番地何某へ拂渡スコトヲ要ス  
一 年 月 日 官廳又ハ裁判所名 官 氏 名 印

何金庫宛

(奥書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年 月 日

府縣郡市町村番地  
受取人 何 某 印

何金庫宛

第八號書式

利息請求書

何年何月何日第何號供託受領證ノ金何圓ニ對スル利息仕拂相成度請求候也

年 月 日

府縣郡市町村番地  
受取人 何 某 印

何金庫宛

(利息記入式)

一金何圓也

何年何月ヨリ  
何年何月マテ

利息額

右之通ニ候也

年 月 日

何 金 庫 宛

(現金領收ノ式)

前書之金額正ニ領收候也

年 月 日

受取人 何 某 印

日本銀行本支店宛  
又ハ其代理店宛

供託物取扱規程



●供託金ノ利息割合 (明治三十二年三月十七日 大藏省告示第九號)

供託法第三條ニ於ケル供託金ノ利息ハ一箇年三步六厘卜定ム

●金錢又ハ有價證券ニ非サル物品供託書式

(明治三十三年八月三日 司法省告示第三十九號)

供託法第六條ニ依リ供託書式左ノ通相定ム

(用紙寸法適宜)

(丙ハ朱)

供託書  
本欄ニハ供託物ノ種類、品質、數量及ヒ荷造ノ種類、箇數並ニ記號等ヲ記載ス

供託物	供託ノ原	保管料	評價金	供託者ノ氏名、住所	反對給付ノ目的	豫備	右供託候也
「本欄ニハ供託物ノ種類、品質、數量及ヒ荷造ノ種類、箇數並ニ記號等ヲ記載ス」	「本欄ニハ供託ノ事由及ヒ供託スヘキ法令ノ條項等ヲ記載ス」						明治 年 月 日
							「府縣郡市町村番地」
							「倉庫營業者氏名(又ハ商號)宛」
							「府縣郡市町村番地」
							「供託者」氏 名 (印)

供託金ノ利息割合 金錢又ハ有價證券ニ非サル物 六百三十七  
品供託書式



● 同上物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者指定

- 東京府東京市深川區小松町七番地 東京倉庫株式會社
- 東京府東京市深川區黑江町三十一番地 中外倉庫株式會社
- 東京府南多摩郡八王子町橫山百三十二番地 八王子米穀株式會社
- 神奈川縣橫濱市綠町四番地 中央倉庫株式會社
- 群馬縣前橋市田中町乙七十七番地 上毛倉庫株式會社
- 群馬縣高崎市赤坂村字大信寺裏六百五十二番地 高崎倉庫株式會社
- 長野縣長野市千歲町五十五番地 長野保管合資會社
- 長野縣東筑摩郡松本町百九十番地 松本倉庫株式會社
- 長野縣諏訪郡上諏訪町四百八番地 上諏訪倉庫株式會社
- 長野縣小縣郡上田町四百九十三番地 上田倉庫株式會社
- 新潟縣新潟市大字魁町 新潟倉庫株式會社

- 新潟縣刈羽郡柏崎町第千四百六十五番戶 柏崎倉庫株式會社
- 新潟縣古志郡草生津町大字久七第八十六番戶 長岡倉庫株式會社
- 京都府京都市下京區東鹽小路町六十六番地 京都倉庫株式會社
- 大阪府大阪市北區中ノ島五丁目九十一番屋敷 東京倉庫株式會社大阪支店
- 大阪府大阪市北區中ノ島三丁目 大阪倉庫株式會社
- 大阪府堺市宿院町西四丁十四番地 堺倉庫株式會社
- 大阪府泉南郡岸和田濱町六百五十七番地 山崎秀四郎
- 兵庫縣神戸市兵庫今出在家町二丁目二番邸 東京倉庫株式會社兵庫支店
- 兵庫縣神戸市榮町三丁目 日本貿易倉庫株式會社
- 滋賀縣大津市坂本町第五十番屋敷 近江倉庫株式會社
- 福井縣敦賀郡敦賀町泉 敦賀倉庫株式會社
- 福井縣福井市豐島中町五十七番地 福井倉庫株式會社
- 石川縣金澤市上今町四十六番地 石浦三郎平
- 同上物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者指定 六百三十九



六百四十

石川縣能美郡小松町字三日市町十九番地

小松倉庫合資會社

石川縣鹿島郡七尾町字生駒町二十八番地

七尾倉庫合資會社

富山縣富山市常盤町三十三番地

株式會社富山倉庫銀行

和歌山縣和歌山市十二番町九番地

和歌山倉庫株式會社

鳥取縣鳥取市藪片原町七十七番地

鳥取倉庫株式會社

愛知縣名古屋市泥江町二丁目四番地

名古屋倉庫株式會社

愛知縣知多郡半田町千四十八番戶

半田倉庫合資會社

三重縣津市大字船頭町八十三番屋敷

津倉庫株式會社

三重縣四日市市大字北納屋町

四日市倉庫株式會社

岐阜縣岐阜市上加納四百三十一番戶

美濃倉庫株式會社

山口縣赤間關市大字西南部町

九州倉庫株式會社下關支店

長崎縣長崎市浦五島町三十五番地

九州倉庫株式會社長崎支店

福岡縣門司市棧橋通一番地

九州倉庫株式會社

沖繩縣那霸區

沖繩開運株式會社

宮城縣宮城郡鹽釜町百四十六番地

鹽釜倉庫株式會社

福島縣信夫郡福島字榮町三十七番地

福島誠壹株式會社

福島縣西白河郡白河町字中町六十六番地

白河倉庫合資會社

巖手縣膽澤郡水澤町

膽江倉庫株式會社

秋田縣平鹿郡橫手町榮通町九番地

前田合名倉庫會社

青森縣青森市新濱町

株式會社青森倉庫

北海道函館區仲濱町十七番地

北海道共同株式會社

北海道函館區末廣町百四番地

渡邊熊四郎

北海道檜山郡江差姥神町四十五番地

永瀧松太郎

北海道札幌區北四條西二丁目一番地

札幌倉庫株式會社

(右二十二年司法省告示第四十號ヲ以テ指定)

新潟縣佐渡郡加茂歌代村

夷倉庫株式會社

同上物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者指定

六百四十一



(右三十四年司法省告示第三十一號ヲ以テ指定)

新潟縣中頸城郡直江津町大字直江津

株式會社北越倉庫銀行

(右三十四年司法省告示第六十七號ヲ以テ指定)

千葉縣千葉郡千葉町

千葉倉庫株式會社

千葉縣海上郡銚子町イ一番地

岡本衡平

栃木縣宇都宮市川向町六十七番地

下野倉庫株式會社

山形縣山形市香澄町字大寶寺

山形運輸株式會社

山形縣飽海郡酒田町船場町十番地

酒田倉庫株式會社

青森縣弘前市大字北瓦ヶ町十九番地ノ一號

株式會社弘前倉庫

(右三十五年司法省告示第十號ヲ以テ指定)

宮城縣仙臺市東五番丁二番地

合資會社宮城倉庫

(右三十五年司法省告示第四十二號ヲ以テ指定)

三重縣度會郡宇治山田町大字河崎町二百二十四番屋敷

村松益治郎

(右三十五年司法省告示第四十三號ヲ以テ指定)

島根縣松江市大字松江分五百四十一番地

松江倉庫株式會社

(右三十五年司法省告示第六十五號ヲ以テ指定)

●指定倉庫營業者定款、規則提出方等ノ件

(明治三十三年八月七日  
司法省訓令第二號)

地方裁判所長

本年司法省告示第四十號ヲ以テ倉庫營業者ヲ指定シタルニ付テハ各地方裁判所長ハ其管内ニ營業所ヲ有スル指定倉庫營業者ヲシテ定款其他營業ニ關スル規則ヲ提出セシメ當省ニ差出スヘシ

定款、營業ニ關スル規則、營業所若クハ代表者ノ變更、破産、解散、營業ノ廢止等アリタルトキ又ハ供託物ヲ保管セシムルニ不適當ナリト認ムヘキ事由アル指定倉庫營業者定款、規則提出方等ノ件 六百四十三



トキハ其都度速ニ當省ニ報告スヘシ

凡ソ各省ノ行政ノ進歩ノ如何ハ其都度速ニ當省ニ報告スヘシ  
其報告ノ内容ハ各省ノ行政ノ進歩ノ如何ハ其都度速ニ當省ニ報告スヘシ  
其報告ノ内容ハ各省ノ行政ノ進歩ノ如何ハ其都度速ニ當省ニ報告スヘシ

（附註）各省ノ行政ノ進歩ノ如何ハ其都度速ニ當省ニ報告スヘシ

各省ノ行政ノ進歩ノ如何ハ其都度速ニ當省ニ報告スヘシ  
各省ノ行政ノ進歩ノ如何ハ其都度速ニ當省ニ報告スヘシ  
各省ノ行政ノ進歩ノ如何ハ其都度速ニ當省ニ報告スヘシ



●商法目次

商法

第一編 總則	一
第一章 法例	一
第二章 商人	二
第三章 商業登記	三
第四章 商號	四
第五章 商業帳簿	六
第六章 商業使用人	七
第七章 代理商	九
第二編 會社	二
第一章 總則	二
商法目次	一



第二章 合名會社.....三

  第一節 設立.....三

  第二節 會社ノ内部ノ關係.....一四

  第三節 會社ノ外部ノ關係.....一六

  第四節 社員ノ退社.....一七

  第五節 解散.....二〇

  第六節 清算.....二三

第三章 合資會社.....二七

第四章 株式會社.....三三

  第一節 設立.....三三

  第二節 株式.....三九

  第三節 會社ノ機關.....四三

  第一款 株主總會.....四三

  第二款 取締役.....四六

  第三款 監查役.....五〇

  第四節 會社ノ計算.....五一

  第五節 社債.....五五

  第六節 定款ノ變更.....五八

  第七節 解散.....六二

  第八節 清算.....六四

第五章 株式合資會社.....六六

第六章 外國會社.....七三

第七章 罰則.....七四

第三編 商行爲.....七七

  第一章 總則.....七七

  第二章 賣買.....八四

商法目次.....三



第三章 交互計算.....六六

第四章 匿名組合.....八八

第五章 仲立營業.....九〇

第六章 問屋營業.....九二

第七章 運送取扱營業.....九四

第八章 運送營業.....九六

    第一節 物品運送.....九六

    第二節 旅客運送.....一〇一

第九章 寄託.....一〇三

    第一節 總則.....一〇三

    第二節 倉庫營業.....一〇五

第十章 保險.....一二二

    第一節 損害保險.....一二二

    第一款 總則.....一二三

    第二款 火災保險.....一二三

    第三款 運送保險.....一二三

    第二節 生命保險.....一二四

第四編 手形.....一二七

    第一章 總則.....一二七

    第二章 爲替手形.....一二九

        第一節 振出.....一二九

        第二節 裏書.....一三三

        第三節 引受.....一三四

        第四節 擔保ノ請求.....一三七

        第五節 支拂.....一四〇

        第六節 償還ノ請求.....一四四

商法目次.....五



第七節 保證……………二四五

第八節 參加……………二四六

第九節 參加引受……………二四六

第十節 參加支拂……………二四六

第十一節 拒絶證書……………二四九

第十二節 爲替手形ノ複本及ヒ謄本……………二五一

第十三節 約束手形……………二五三

第十四節 小切手……………二五五

第五編 海商……………二五九

第一章 船舶及ヒ船舶所有者……………二六〇

第二章 船員……………二六〇

第三節 船長……………二六〇

第四節 海員……………二七〇

第三章 運送……………二七五

第一節 物品運送……………二七五

第二節 旅客運送……………二七五

第三節 船荷證券……………二八六

第四節 旅客運送……………二八九

第四章 海損……………二九一

第五章 保險……………二九五

第六章 船舶債權者……………二九五

商法施行法……………二〇九

商法中署名ニキ場合ニ關スル件……………二二九

小商人ノ範圍ニ關スル件……………二三九

商法施行前ニ登記ナキ株式會社ノ登記ニ關スル件……………二四〇

外國會社ノ支店及外國人カ設立シタル會社竝組合ニ關スル件……………二四〇



湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍ノ件……………二四二

海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿書式……………二四三

舊商法破産編……………二四四

第三編 破産……………二四五

第一章 破産宣告……………二四五

第二章 破産ノ效力……………二四八

第三章 別除權……………二五二

第四章 保全處分……………二五三

第五章 財團ノ管理及ヒ換價……………二五六

第六章 債權者……………二六一

第一節 債權ノ届出及ヒ確定……………二六一

第二節 特種ノ債權者……………二六四

第三節 債權者集會……………二六六

第七章 協諧契約……………二六七

第八章 配當……………二七〇

第九章 有罪破産……………二七二

第十章 破産ヨリ生スル身上ノ結果……………二七三

第十一章 支拂猶豫……………二七五

舊商法施行條例……………二七六

商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件……………二八三







第三條 公法人ノ商行爲ニ付テハ法令ニ別段ノ定ナキトキニ限り本法ノ規定ヲ適用ス  
第三條 當事者必シ方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ付テハ本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス

第二章 商人

第四條 本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂

第五條 未成年者又ハ妻カ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六條 會社以無限責任社員ト爲ルコトヲ許シタル未成年者又ハ妻カ其會社

第七條 後見人及被後見人ニ爲ルニ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

後見人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得

ス  
後見人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第八條 戶戶ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他小商人ニハ商業登記、

第九條 本法ノ規定ニ依リ登記スルキ事項ハ當事者ノ請求ニ因リ其營業所ノ裁

第十條 本店ノ所在地ニ於テ登記スルキ事項ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店

第十一條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第十二條 登記スルキ事項ハ登記及ヒ公告ノ後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三

第十三條 支店ノ所在地ニ於テ登記スルキ事項ヲ登記セザリシトキハ前條ノ規

第十四條 其支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ之ヲ適用ス

商法 總則 商人 商業登記



第十四條 登記ノ其公告下抵觸スル下雖モ之去以テ第三者ニ對抗スルコト

第十五條 登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタルトキハ當事者

ハ遲滯ヲ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 商人ハ其氏、氏名其他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス

第十七條 會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合名會社、合資會社、株式會社又ハ

株式合資會社ナル文字ヲ用ユルコトヲ要ス

第十八條 會社ニ非スシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ユルコト

第十九條 規定ニ違反シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十條 他人カ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ之ヲ

登記スルコトヲ得ス

第二十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ

商號ヲ使用スル者ニ對シテ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得但損害

賠償ヲ請求ヲ妨ガズ

第二十二條 商號ノ讓渡ハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スル

第二十三條 商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者別段ノ意思ヲ表

示セザルシテキハ讓渡人ハ同市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコト

ヲ得ズ

第二十四條 讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三

十年ヲ超エザル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス

讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲ス

商法 總則 商號

五



第三十三條 前條ノ規定ハ營業ノミテ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ異議ヲ以テ其期間内ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告シ若シ其期間内ニ異議ノ申立ナキト

キハ直ニ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第三十五條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日毎ノ取引其他財産ニ影響ヲ及ボスヘキ一切ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但家事費用ハ一个月毎ニ其總額ヲ記載スルヲ以テ足ル

小賣ノ取引ハ現金賣下掛賣下ヲ分チ日毎ノ賣上總額ノミヲ記載スルコトヲ

得

第三十六條 動産、不動産、債權、債務其他ノ財産ノ總目錄及ヒ貸方借方ノ對照表ハ商人ハ開業ノ時又ハ會社ヲ設立登記ノ時及ヒ毎年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ作り特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

財産目錄ニハ動産、不動産、債權其他ノ財産ニ其目錄調製ノ時ニ於ケル價格ヲ附スルコトヲ要ス

第二十七條 年一回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ前條ノ規定ニ從ヒ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第二十八條 商人ハ十年間其商業帳簿及ヒ其營業ニ關スル信書ヲ保存スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ商業帳簿ニ付テハ其帳簿閉鎖ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條 商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムル

商法 總則 商業帳簿 商業使用人 七



第三十條 支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ

行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス。但シ其權限ハ法律ニ規定スルモノトシテ、法律ニ規定セザルハ、其權限ハ無キトス。

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得。

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得。但シ其制限ハ法律ニ規定スルモノトシテ、法律ニ規定セザルハ、其制限ハ無キトス。

第三十一條 支配人ハ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ置キテ本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ主人之ヲ登記スルコトヲ要ス。

第三十二條 支配人ハ主人ノ許諾ヲ得テ非頻密ニ自己又ハ爲メニ商行爲ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得。但シ其許諾ハ法律ニ規定スルモノトシテ、法律ニ規定セザルハ、其許諾ハ無キトス。

支配人ハ前項ノ規定ニ反シテ自己ヲ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ主人ノ之ヲ以テ自己ノ爲メニ爲シタルモノトシテ看做ス。但シ其看做ハ法律ニ規定スルモノトシテ、法律ニ規定セザルハ、其看做ハ無キトス。

前項ニ定メタル權利ハ主人カ其行爲ヲ知りタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルト

キハ消滅ス。行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ。但シ其消滅ハ法律ニ規定スルモノトシテ、法律ニ規定セザルハ、其消滅ハ無キトス。

第三十三條 商人ハ番頭又ハ手代ヲ選任シ其營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ヲ委任スルコトヲ得。但シ其委任ハ法律ニ規定スルモノトシテ、法律ニ規定セザルハ、其委任ハ無キトス。

番頭又ハ手代ハ其委任ヲ受ケタル事項ニ關シ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス。但シ其權限ハ法律ニ規定スルモノトシテ、法律ニ規定セザルハ、其權限ハ無キトス。

第三十四條 支配人ハ番頭又ハ手代ニ非サル使用人ハ主人ニ代ハリテ法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有セザルモ、法律ニ規定スルモノトシテ、法律ニ規定セザルハ、其權限ハ無キトス。

第三十五條 本章ノ規定ハ主人ト商業使用人トノ間ニ生ズル雇傭關係ニ付キ民法ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ケズ。但シ其適用ハ法律ニ規定スルモノトシテ、法律ニ規定セザルハ、其適用ハ無キトス。

第三十六條 代理商トハ使用人ニ非ズシテ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ全部ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ。

第三十七條 代理商カ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滯ヲ以テ本人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス。但シ其通知ハ法律ニ規定スルモノトシテ、法律ニ規定セザルハ、其通知ハ無キトス。



第三十八條 代理商ハ本人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ本人  
之營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ハ無限  
責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第三十二條 第三項及ヒ第三項ノ規定ハ代理商カ前項ノ規定ニ違反シタル場合  
ニ之ヲ準用ス

第三十九條 物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ其數  
量ノ不足其他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受ケル權限ヲ有ス

第四十條 當事者カ契約ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ二个月前ニ豫告  
ヲ爲シテ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

當事者カ契約ノ期間ヲ定メタルト否モ其間ハ已ムコトヲ得サレ事由アルト  
キハ各當事者ハ何時ニテモ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因テ發生シタル債權  
ニ付キ本人ノ爲メニ占有スル物ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタ

ルトキハ此限ニ在ラス

第二編 會社

第一章 總則

第四十三條 本法ニ於テ會社トハ商行爲ヲ爲スル業ヲ業トシテ設立シタル

法人ヲ謂フ

第四十三條 會社ハ合名會社、合資會社、株式會社及ヒ株式合資會社ノ四種ト

ス

第四十四條 會社之辦法ハ其章程ニ記シテ其組織ヲ定ムルコトヲ得

會社ノ住所ハ其本店ノ所在地ニ在ルモノト爲ス

第四十五條 會社ノ設立ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以

テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十六條 會社ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非テ其開業ノ準備ヲ

著手スルコトヲ得ス

商法 會社 總則



第四十七條 會社方本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後六个月内ニ開業ヲ爲

ササルキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ  
得但正當ノ事由アルトキハ其會社ノ請求ニ因リ此期間ヲ伸長スルコトヲ  
得

第四十八條 會社カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁  
判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二章 合名會社

第四十九條 合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第五十條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要  
ス

一 目的

二 商號

三 社員ノ氏名・住所

四 本店及ヒ支店ノ所在地

五 社員ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

第五十一條 會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地

ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二 本店及ヒ支店

三 設立ノ年月日

四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

五 社員ノ出資ノ種類及ヒ財產ヲ目的トスル出資ノ價格

六 會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名

會社設立ノ後支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ前項

ニ定メタル登記ヲ爲シ本店及ヒ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其支店

商法 會社 合名會社



ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス  
本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第五十二條 會社ハ其本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ前條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミヲ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 第五十二條第二項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 會社ノ内部ノ關係

第五十四條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 社員カ債權ヲ以テ出資ノ目約ト爲シタル場合ニ於テ債務者カ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザルシキハ社員ハ其辨濟ノ責ニ任ス此場合ニ於テハ其利息又拂フ外尙損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ專有シ義務ヲ負フ

第五十七條 會社ハ其選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス  
第五十八條 定款ノ變更其他會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

第五十九條 社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得ズシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ其讓渡ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ

第六十條 社員ハ他ノ社員ノ承諾スルニ非サレバ自己又ハ第三者ヲ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ



無限責任社員ト爲ルコトヲ得ズ。又、前條ノ規定ニ依リテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ノ過半數ノ決議ニ依リテ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得。前項ニ定メタル權利ハ他ノ社員ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ三週間之ヲ行カザル限キハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ。

第六十八條 第三節 會社ノ外部ノ關係 前條ノ規定ニ依リテ會社ノ代表スヘキ社員ヲ定メサレバ、第六十一條ノ規定又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メサレバ、第六十二條ノ規定又ハ各社員會社ヲ代表スル權ヲ得。但シ、營業ノ執行ニ關スルモノハ、第六十三條ノ規定ニ依リテ之ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外之行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス。又、前條ノ規定ニ依リテ會社ノ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外之行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス。

第六十四條 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員連帶シテ其辨済ノ責任ヲ負フ。

第六十四條 設立ノ後會社ニ加入シタル社員ハ其加入前ニ生シタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ。

第六十五條 社員ニ非サル者ニ自己ヲ社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其者ハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フ。

第六十六條 社員ノ出資ノ減少ハ之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス。但本店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シタル後二年間債權者カ之ニ對シテ異議ヲ述ヘザルシトキハ此限ニ在ラス。

第六十七條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得。前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得。

第四節 社員ノ退社

第六十八條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メサリシトキ又ハ或社員ノ終身間



會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

一 定款ニ定メタル事由ノ發生

二 總社員ノ同意

三 死亡

四 破産

五 禁治産

六 除名

第七十條 社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スル

コトヲ得ス

一 社員カ出資ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲ササルトキ

二 社員カ第六十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 社員カ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當タリ會社ニ對シテ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ

四 社員カ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサル場合ニ於テ其業務ノ執行ニ干與シタルトキ

五 其他社員カ重要ナル義務ヲ盡ササルトキ

第七十一條 退社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其持分ノ拂戻ヲ受ケルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十二條 會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用井タルトキハ退社員ハ其氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

商法 會社 合名會社



第七十三條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社  
ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ其登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス  
前項ノ規定ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ持分ヲ讓渡シタル社員ニ之ヲ準用ス  
第七十四條 第五節解散

第七十四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
- 三 總社員ノ同意
- 四 會社ノ合併
- 五 社員カ一人ト爲リタルコト
- 六 會社ノ破産
- 七 裁判所ノ命令

第七十五條 前條第一號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社

ヲ繼續スルコトヲ得但同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十六條 會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外二週間内ニ  
本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第七十七條 會社ノ合併ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得  
第七十八條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ二週間内ニ財  
産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

會社ハ前項ノ期間内ニ其債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘ  
キ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間  
ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘサ  
リシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス  
債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供ス



ルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス  
前項ノ規定ニ反シテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ  
對抗スルコトヲ得ス

第八十條 會社カ第七十八條第二項ニ定メタル公告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ス  
會社カ知レタル債權者ニ催告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其催告ヲ受ケサリシ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八十一條 會社カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十二條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但裁判所ハ社員ノ請求ニ因リ會社ノ解散ニ代ヘテ或社員ヲ除名スルコトヲ得

第六節 清算

第八十四條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ス

第八十五條 解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條 前條ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定メサリシトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外後十三條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス



第八十七條 清算ハ總社員又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ選任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八條 第七十四條第五號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因

リ清算人ヲ選任ス

第八十九條 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係

人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第九十條 清算人ノ選任アリタルトキハ其清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ

所在地ニ於テ自己ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第九十一條 清算人ノ職務左ノ如シ

一 現務ノ終了

二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟

三 殘餘財産ノ分配

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ

爲ス權限ヲ有ス

清算人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得

ス

民法第八十一條ノ規定ハ合名會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十二條 會社ニ現存スル財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ清算人

ハ辨濟期ニ拘ハラス社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十三條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其過半数ヲ以テ之ヲ決

ス但第三者ニ對シテハ各自會社ヲ代表ス

第九十四條 清算人ハ就職ノ後遲滯ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ

貸借對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第九十五條 清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非アレハ會社財産ヲ社員ニ

分配スルコトヲ得ス



第九十六條 社員カ選任シタル清算人ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得此解任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第九十七條 清算人ノ解任又ハ變更ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第九十八條 清算人ノ任務カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ計算ニ對シ社員カ一个月内ニ異議ヲ述ベサリシトキハ之ヲ承認シタルモ以下看做ス但清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十九條 清算カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一百條 會社カ事業ニ著手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ解散ノ場合ニ

準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第一百一條 會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ第八十五條ノ場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後其他

ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム

第一百二條 社員カ死亡シタル場合ニ於テ其相續人數人アルトキハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

第一百三條 第六十三條ニ定メタル社員ノ責任ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前項ノ期間經過ノ後ト雖モ分配セサル殘餘財産尙ホ存スルトキハ會社ノ債權者ハ之ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第三章 合資會社

商法 會社 合資會社



第四百四條 合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第四百五條 合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百六條 合資會社ノ定款ニハ第五十條ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第四百七條 會社ハ定款ヲ作りタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

第四百八條 有限責任社員ハ金錢其他ノ財産ノミヲ以テ其出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第四百九條 各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

無限責任社員數人アルトキハ會社ノ業務執行ハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第一百十條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ無限責任社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第一百十一條 有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於テ營業時間内ニ限り會社ノ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ閱覽ヲ求メ且會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ有限責任社員ノ請求ニ因リ何時ニテモ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査ヲ許スコトヲ得

第一百十二條 有限責任社員ハ無限責任社員全員ノ承諾アルトキハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得

第一百十三條 有限責任社員ハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ヲ無限責任社員ト爲ルコトヲ得

第一百十四條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員  
商法 會社 合資會社



ヲ定メサルトキハ各無限責任社員會社ヲ代表ス

第百十五條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得  
ス

第百十六條 有限責任社員ニ自己ヲ無限責任社員ナリト信セシムヘキ行爲アリ  
タルトキハ其社員ハ善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負  
フ

第百十七條 有限責任社員カ死亡シタルトキハ其相續人之ニ代ハリテ社員ト爲  
ル

有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受クルモ之ニ因リテ退社セス

第百十八條 合資會社ハ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員カ退社シタルト  
キハ解散ス但有限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ無限責任社員ノ一  
致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨ケス  
前項但書ノ場合ニ於テハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ

付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記  
ヲ爲スコトヲ要ス

### 第四章 株式會社

#### 第一節 設立

第百十九條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス

第百二十條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要  
ス

#### 一 目的

#### 二 商號

#### 三 資本ノ總額

#### 四 一株ノ金額

#### 五 取締役カ有スヘキ株式ノ數

#### 六 本店及ヒ支店ノ所在地

商法 會社 株式會社



七 會社カ公告ヲ爲ス方法  
八 發起人ノ氏名、住所

第二百一十一條 前條第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定款ニ記載セサリシト  
キハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ得

前項ノ株主總會ノ決議ハ第二百九條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十二條 左ニ掲ケタル事項ヲ定メタルトキハ之ヲ定款ニ記載スルニ非サ  
以ハ其效ナシ

第二百二十三條 存立時期又ハ解散ノ事由

第二百二十四條 株式ノ額面以上ノ發行

三 發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名

四 金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名、其財産ノ種類、價  
格及ビ之ニ對シテ與フル株式ノ數

五 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額

第二百二十三條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ會社ハ之ニ因リテ成立  
ス此場合ニ於テハ發起人ハ遲滯ナク株金ノ四分ノ一ヲ下テサル第一回ノ拂込  
ヲ爲シ且取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス此選任ハ發起人ノ議決權ノ  
過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二百二十四條 取締役ハ其選任後遲滯ナク第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲  
ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査セシムル爲メ監査役ノ  
選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第二百二十五條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサルトキハ株主ヲ募集スルコトヲ  
要ス

第二百二十六條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通ニ其引受クヘキ  
株式ノ數ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

商法 會社 株式會社



株式申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 定款作成ノ年月日
- 二 第二百十條及ヒ第二百二十二條ニ掲ケタル事項
- 三 各發起人カ引受ケタル株式ノ數
- 四 第一回拂込ノ金額

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込入ハ株式申込證

ニ引受價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百二十七條 株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ拂込

ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二百二十八條 株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ズ

第一回拂込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第二百二十九條 株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク各株ニ付キ第

一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回  
ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

第三百十條 株式引受人カ前條ノ拂込ヲ爲ササルトキハ發起人ハ一定ノ期間内

ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フヘキ

旨ヲ其株式引受人ニ通知スルコトヲ得但し其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ズ

發起人カ前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利

ヲ失フ此場合ニ於テ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集ス

ルコトヲ得

前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第三百十一條 各株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナ

ク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス

創立總會ニハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出

席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

商法 會社 株式會社



第百五十六條第一項、第二項及ヒ第百六十一條第三項、第四項、第百六十二條及ヒ第百六十三條第一項、第二項ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第百三十二條 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第百三十三條 創立總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第百三十四條 取締役及ヒ監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ

報告スルコトヲ要ス

一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 各株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ

三 第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ノ正當ナルヤ否ヤ

取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ

検査役ヲ選任シ其者ニ代ハリテ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十五條 創立總會ニ於テ第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項

ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得但金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ於テ之ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ減シタルトキハ其者ハ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得

第百三十六條 引受ナキ株式又ハ第百二十九條ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ發起人ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキ亦同シ

第百三十七條 前二條ノ規定ハ發起人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第百三十八條 總立總會ニ於テハ定款ノ變更又ハ設立ノ廢止ノ決議ヲモ爲スコトヲ得

第百三十九條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケザリシトキハ會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第百四十條 株式總數ノ引受アリタル後一年內ニ第百二十九條ノ拂込カ終ハラサルトキ又ハ其拂込カ終ハリタル後六個月內ニ發起人カ創立總會ヲ招集セザ



ルトキハ株式引受人ハ其申込ヲ取消シ拂込ミタル金額ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百十一條 會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第二百二十四條ニ定メタル調査終了ノ日ヨリ又發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 第二百二十條第一號乃至第四號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項
- 二 本店及ヒ支店
- 三 設立ノ年月日
- 四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
- 五 各株ニ付キ拂込ミタル株金額
- 六 開業前ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率
- 七 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

第五十一條第二項、第三項、第五十二條及ヒ第五十三條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第四百十二條 會社カ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ハ株式引受人ハ詐欺又ハ強迫ニ因リテ其申込ヲ取消スコトヲ得ス

第二節 株式

第四百十三條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第四百十四條 株主ノ責任ハ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ限度トス

株主ハ株金ノ拂込ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百十五條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス但一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り之ヲ二十圓マテニ下スコトヲ得

第四百十六條 株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス



共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第四百十七條 株券ハ第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登

記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ發行シタル株券ハ無効トス但株券ヲ發行シタル者ニ對ス

ル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第四百十八條 株券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ

要ス

一 會社ノ商號

二 第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル

年月日

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメサル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其金額ヲ株券

ニ記載スルコトヲ要ス

第四百十九條 株式ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人

ニ讓渡スコトヲ得但第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登

記ヲ爲スマテハ之ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十條 記名株式ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名、住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏

名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ

得ス

第四百五十一條 會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケルコ

トヲ得ス

株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ消却スルコトヲ得ス但定款ノ定

ムル所ニ從ヒ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テスルハ此限ニ在ラス

第四百五十二條 株金ノ拂込ハ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス

株主カ期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲ス

商法 會社 株式會社



へキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

第五百十三條 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得ス

讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ株式ヲ競賣スルコトヲ要ス此場合ニ於テ競賣ニ依リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得若シ從前ノ株主カ二週間内ニ之ヲ辨濟セサルトキハ會社ハ讓渡人ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得  
前三項ノ規定ハ會社カ損害賠償及ヒ定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百十四條 前條ニ定メタル讓渡人ノ責任ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第五百十五條 株金全額ノ拂込アリタルトキハ株主ハ其株券ヲ無記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

株主ハ何時ニテモ其無記名式ノ株券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第五百十六條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ



開クヘキ旨及ヒ前項ニ掲ケタル事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第五十七條 定時總會ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ取締役之ヲ招集スルコトヲ要ス

年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ總會ヲ招集スルコトヲ要ス

第五十八條 定時總會ハ取締役力提出シタル書類及ヒ監查役ノ報告書ヲ調査シ且利益又ハ利息ノ配當ヲ決議ス

前項ニ掲ケタル書類ノ當否ヲ調査セシムル爲メ總會ハ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第五十九條 臨時總會ハ必要アル毎ニ取締役之ヲ招集ス

第六十條 資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ハ總會ノ目的及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

取締役力前項ノ請求アリタル後二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ

其請求ヲ爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其招集ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルニ非サレハ其議決權ヲ行フコトヲ得ス

株主ハ代理人ヲ以テ其議決權ヲ行フコトヲ得但其代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出タスコトヲ要ス

總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其議決權ヲ行フコトヲ得ス

第六十二條 各株主ハ一株ニ付キ一箇ノ議決權ヲ有ス但十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第六十三條 總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法法令又ハ定款ニ反スルトキハ株主ハ其決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス



取締役又ハ監査役ニ非サル株主カ第一項ノ請求ヲ爲シタルトキハ其株券ヲ供託シ且會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第二款 取締役

第六十四條 取締役ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス

第六十五條 取締役ハ三人以上タルコトヲ要ス

第六十六條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス但其任期滿了ノ後之ヲ再選スルコトヲ妨ケス

第六十七條 取締役ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但任期ノ定アル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其任期前ニ之ヲ解任シタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條 取締役ハ定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十九條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及ヒ解任亦同シ

第七十條 取締役ハ各自會社ヲ代表ス

第六十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第七十一條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議録ヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ置キ且株

主名簿及ヒ社債原簿ヲ本店ニ備ヘ置クコトヲ要ス

株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第七十二條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 株主ノ氏名、住所

二 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號

三 各株ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂込ノ年月日

四 各株式ノ取得ノ年月日



五 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其數、番號及ヒ發行ノ年月日

第七十三條 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 社債權者ノ氏名、住所

二 債券ノ番號

三 社債ノ總額

四 各社債ノ金額

五 社債ノ利率

六 社債償還ノ方法及ヒ期限

七 債券發行ノ年月日

八 各社債ノ取得ノ年月日

九 無記名式ノ債券ヲ發行シタルトキハ其數、番號及ヒ發行ノ年月日

第七十四條 會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルトキハ取締役ハ遲滯ナク株主總

會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ取締役  
ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 取締役ハ株主總會ヲ認許アルニ非サレバ自己又ハ第三者ヲ爲シ  
ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トシ他ノ  
會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シ該旅行時ハ株主總會  
ハ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ監査役一人カ其行爲ヲ知りタル時ヨリ二个月間之法  
行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ  
第七十六條 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲  
メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 取締役カ法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會  
ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得



前項ノ規定ハ其行爲ニ對シ株主總會ニ於テ異議ヲ述ベ且監查役ニ其旨ヲ通知シタル取締役ニハ之ヲ適用セス

第七十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ監查役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求以日ヨリ一箇月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ其株券ヲ供託シ且監查役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第七十九條 取締役カ受クヘキ報酬ハ定款ニ其額ヲ定メザリシトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第三款 監查役

第八十條 監查役ノ任期ハ之ヲ一年トス但其任期滿了ノ後之ヲ再選スルコト

ヲ妨グ

第八十一條 監查役ハ何時ニ任取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社

ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第八十二條 監查役ハ株主總會ヲ召集スル必要アリ且認メタルトキ其召集

ヲ爲シ且得テ此總會ニ於テハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシム

第九十三條 監查役ハ取締役カ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主

總會ニ其意見ヲ報告スルコトヲ要ス

第八十四條 監查役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得

員アルトキハ取締役及ヒ監查役以協議ヲ以テ監查役中ヨリ六時取締役ノ職務

ヲ行フ者ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監查役ハ第九十二條第一項ノ規定